SONY®

4-738-202-04(1)

プロダクションコントロール ソフトウェア

ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン 2.7

PWA-PRC1

© 2013 Sony Corporation

権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびこのソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されております。
© 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019 Sony Corporation

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負い兼ねます。
万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。
このソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。
このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

目次

概要 5
各部の名称と働き 6
操作パネル 6
操作パネルのロック 8
操作画面 9
サーバーのステータス表示 11
ビューアー 12
ソフトボタンメニュー 16
クリップリスト／プレイリスト一覧 17
モード／セッティング画面切り換えボタン 19
情報表示エリア 19
サブモニター 20
準備 22
レコードトレインの管理 22
アプリケーションの起動と終了 24
基本操作 25
操作モード 25
PGM モード 25
Preview Control モード 27
ソフトボタンメニューの項目 28
クリップ管理 29
クリップの基本操作 29
ソフトボタンメニューの項目 34
クリップの選択 35
コンテキストメニューの項目 36
メタデータの登録 37
操作画面でのメタデータ登録 37
操作パネルでのメタデータ登録 41
クリップの検索 43
メタデータ検索 43
タイムコード検索 44
クリップ名検索 45
検索結果の確認 45
プレイリスト管理 47
プレイリストモード 47
プレイリストの選択 51

プレイリストの基本操作 52
プレイリスト編集・再生の基本操作 53
オーディオのスプリット編集 57
オーディオチャンネルの入れ換え 58
プレイリストの一本化 59
ソフトボタンメニューの項目 60
カットアウト編集機能 63
カットアウトモード 63
カットアウトの基本操作 64
Share Play 機能 67
準備 67
ネットワークサーバーの選択 67
ネットワークサーバーのレコードトレインのロード 68
ネットワークサーバーでのクリップの作成 68
ネットワークサーバーのクリップのロード 68
ネットワークサーバー上のカメラのマッピング 68
ネットワークサーバーのカットアウトデータの操作 69
設定 70
セッティング画面 70
設定項目 71
付録 81
商標について 81
LGPL 適用ソフトウェアの入手について 81

概要

本書では、プロダクションコントロールソフトウェア PWA-PRC1 と USB コントロールデバイス PWSK-4403 の機能と操作について説明します。

PWA-PRC1 は、マルチポート AV ストレージユニット PWS-4500 またはベースバンドプロセッサーユニット BPU4800 を制御して、ライブ映像のスロー再生やクリップ／プレイリスト管理を行うためのソフトウェアです。
PWA-PRC1 がインストールされたコンピューターに PWSK-4403 を USB 接続し、各種ボタンやフェーダーレバー、ジョグダイヤルを使用して操作します。
コンピューター画面に表示される映像を確認しながら、スロー再生の速度コントロール、画像の検索、マーク位置へのキューアップ、カットアウト編集などが可能です。また、作成したクリップを一覧から選択して再生やコピーを行ったり、プレイリストに登録してハイライト編集を行うことができます。

本書では、PWS-4500 および BPU4800 を以降「サーバー」と表記します。
また、PWA-PRC1 から記録・再生を行うサーバーのことを「ローカルサーバー」と呼びます。

PWA-PRC1 の動作環境、PWS-4500 または BPU4800 との接続や設置方法などについては、ソニーの営業担当者またはサービス担当者にお問い合わせください。

ご注意

PWA-PRC1 は、映像／音声のコントロールを目的としたソフトウェアであり、コンピューター上でのリアルタイムの再生を保証するものではありません。

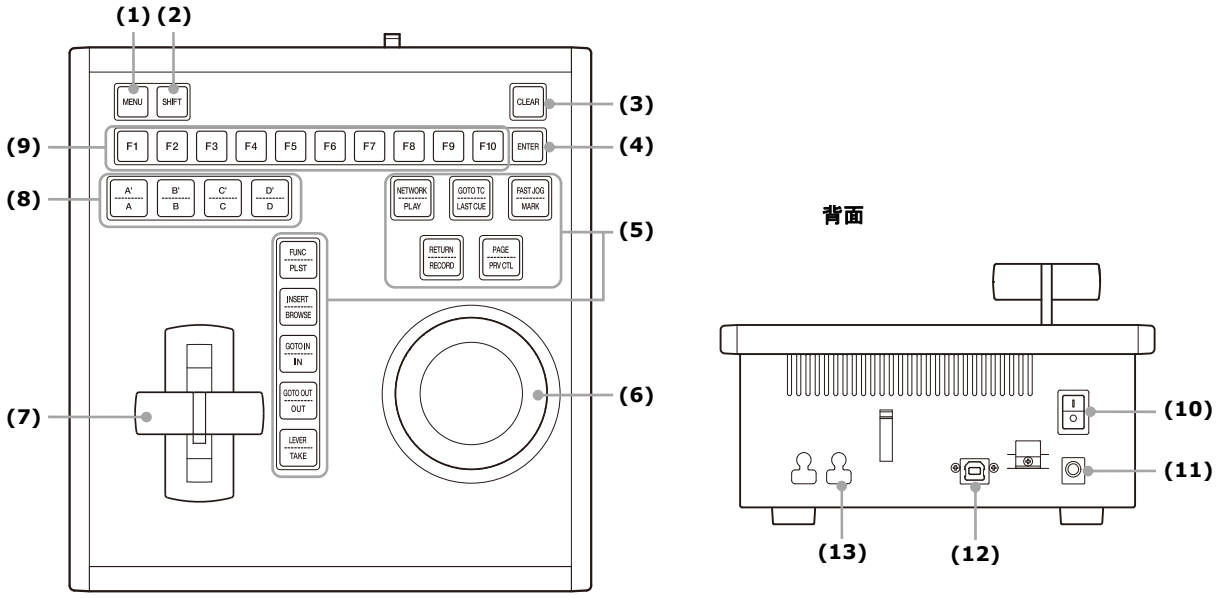
各部の名称と働き

USB コントロールデバイス PWSK-4403 の操作パネルと、プロダクションコントロールソフトウェア PWA-PRC1 の操作画面について説明します。
PWA-PRC1 をインストールした 1 台のコンピューターに操作パネルを 2 台まで接続できます。

操作パネル

ご注意

PWSK-4403 の電源を投入した後は、フェーダーレバーの稼働範囲を設定するために必ずフェーダーレバーを最上端まで動かし、その後最下端まで動かしてください。



(1) MENU ボタン　ソフトボタンメニューを選択するときに使用します。確認メッセージのキャンセルボタンとしても使用します。

(2) SHIFT ボタン　オペレーションボタンとソフトボタンの上段（シフト側）の機能を選択するときに使用します。

(3) CLEAR ボタン　クリップ／プレイリストやマーク、IN/OUT 点の削除に使用します。

(4) ENTER ボタン　設定を有効にするときや確認メッセージで確定するときに使用します。選択中のプレイリストの最後にクリップを登録するときにも使用します。

（5） オペレーションボタン 各ボタンには上段と下段に異なる機能が割り当てられています。
各ボタンを押すと、下段の機能が選択されます。上段の機能を選択する場合は、[SHIFT]ボタンを押してから各ボタンを押します。

ボタン	機能
PLAY	サーチモード中やクリップ選択後に、再生を開始する。
NETWORK	ファイル共有またはネットワークコピーのためのサーバーを指定する
LAST CUE	1 つ前のマーク位置にキューアップする。 セッティング画面の[Preroll for cue point]が設定されている場合、[Preroll for cue point]の設定に従って、実際のマーク位置より前の位置にキューアップします。
GOTO TC	タイムコードを入力して、指定した位置にキューアップする。 Goto Start：先頭にキューアップ Goto End：最後にキューアップ
MARK	記録中レコードトレインのタイムコード位置にマーク（キューアップポイント）を設定する。
FAST JOG	ジョグダイヤルを高速モードに切り換える。高速モードの速度はセッティング画面で設定する。
RECORD	サーチモード中やクリップ再生中に、ライブモードに切り換える。ライブモードに戻ると、設定した IN/OUT 点は消去される。
RETURN	レコードトレインの操作中は、ライブモードに切り換える。ライブモードに戻っても、設定した IN/OUT 点は保持される。 クリップの操作中は、現在の位置に相当するレコードトレインにキューアップする。直前のレコードトレインに設定していた IN/OUT 点がある場合、その値は設定される。
PRV CTL	プレイリスト編集モードで、素材のクリップの操作を有効にする。 Preview Control モードで、PGM と PRV のコントロールを切り換える。
PAGE	クリップ／プレイリストのページを選択する。
PLST	プレイリスト編集モード、プレイリストプレイアウトモードに切り換える。
FUNC	（このバージョンでは使用しません。）
BROWSE	最後に行った検索条件で検索を実行し、検索結果を表示する。または現在のタイムコードで検索を実行し、検索結果を表示する。 クリップの検索結果のブラウズ操作を有効にする。 プレイリスト編集モードで、クリップのブラウズ操作を有効にする。また、カットアウトモードで、キーフレームテーブル上のカットアウトデータのジョグによる選択を有効にする。
INSERT	選択中のプレイリストにクリップを挿入する。
IN	クリップに IN 点を設定する。
GOTO IN	IN 点にキューアップする。
OUT	クリップに OUT 点を設定する。

ボタン	機能
GOTO OUT	OUT 点にキューアップする。
TAKE	PGM 選択とカメラ選択を切り換える。 Preview Control モードでは、PGM 側の出力画と PRV 側の出力画を切り替える。
LEVER	フェーダーレバーをセカンドモードに切り換える。セカンドモードの速度範囲はセッティング画面で設定する。

(6) ジョグダイヤル サーチモードに切り換わり、回す量に応じて正方向／逆方向にコマ送りします。

(7) フェーダーレバー スロー再生の速度をコントロールします。
PWSK-4403 の電源を投入した後は、フェーダーレバーの稼働範囲を設定するために必ずフェーダーレバーを最上端まで動かし、その後最下端まで動かしてください。

(8) ソフトボタン 操作画面に表示されるソフトボタンメニューの項目を選択します。

(9) ファンクションボタン ページ、バンク、クリップ／プレイリストの選択などに使用します。

(10) 電源スイッチ 電源をオン／オフします。

(11) DC IN 端子 PWSK-4403 に付属の AC アダプターを接続します。

(12) USB 端子 USB ケーブルで PWA-PRC1 がインストールされたコンピューターに接続します。

(13) ディップスイッチ 2 台の PWSK-4403 を接続する場合、操作パネルを識別するために使用します。
スイッチの設定については、インストレーションガイドを参照してください。

操作パネルのロック

操作パネルの誤操作を防ぐために、次の手順で操作パネルをロックできます。

ご注意

何らかのダイアログを表示しているときは、操作パネルのロックおよびロック解除はできません。

1. ロックする PWSK-4403 の CLEAR ボタンを押す。
CLEAR ボタンが緑色に点灯します。

2. 5 秒以内に MENU ボタンを押す。
CLEAR ボタン以外のすべてのボタンが赤色に点灯します。ロックを解除するまで、CLEAR ボタン以外のすべてのボタンとフェーダーレバー、ダイヤルは操作しても機能しません。

操作パネルのロックを解除するには

ロックするときと同じ手順で、操作パネルのロックを解除できます。CLEAR ボタンを押し、5 秒以内に MENU ボタンを押してください。

操作画面

PWA-PRC1 の基本操作画面には、「1 デバイスモード」と「2 デバイスモード」、「ビューアーモード」の 3 種類の表示モードがあります。
操作画面の[1-Device]または[2-Device]、[Viewer]をクリック／タップして表示モードを切り換えることができます。

1 デバイスモード／2 デバイスモードの画面

「情報表示エリア」と、クリップ一覧などが表示される「クリップリストエリア」、ビューアーが表示される「ビューアーエリア」から構成されます。
これらのモードでは、I/O 構成にかかわらず、セッティング画面で「4 アングルモード」または「6 アングルモード」を選択できます（これらのアングルモードは、F5 キーで切り換えることができます）。
クリップリストエリアに表示されるカメラアングルや縮小ビューアーの数は、アングルモードの設定により異なります。

1 デバイスモード

2 デバイスモード

クリップ一覧表示部分以外は 1 デバイスモードと同等です。1 デバイスモードでは操作対象となるサーバーが 2 バンク表示されるのに対し、2 デバイスモードでは 2 つのサーバーに対しそれぞれ 1 バンクずつの表示となります。

ビューアーモードの画面

「情報表示エリア」と、ビューアーが表示される「ビューアーエリア」から構成されます。

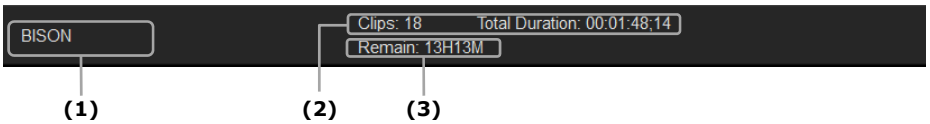
ビューアーモードには、4 ビューアーモード、6 ビューアーモード、10 ビューアーモードの 3 種類のレイアウトがあり、ビュー選択ボタンの[4-Viewer]、[6-Viewer]、[10-Viewer]で選択できます。[System]を選ぶと I/O 構成に合わせて自動的にレイアウトが選ばれます。

各ビューアーに表示する入／出力画像は、ポート選択リストボックスで選択できます。

4 ビューアーモード

サーバーのステータス表示

ローカルに指定されているサーバーの情報を表示します。



(1) ローカルとして指定されているサーバーの名前

(2) クリップリストに登録されているクリップ数とその合計時間

(3) サーバーで記録可能な残り時間

残り時間が少なくなると、以下の色で警告表示します。

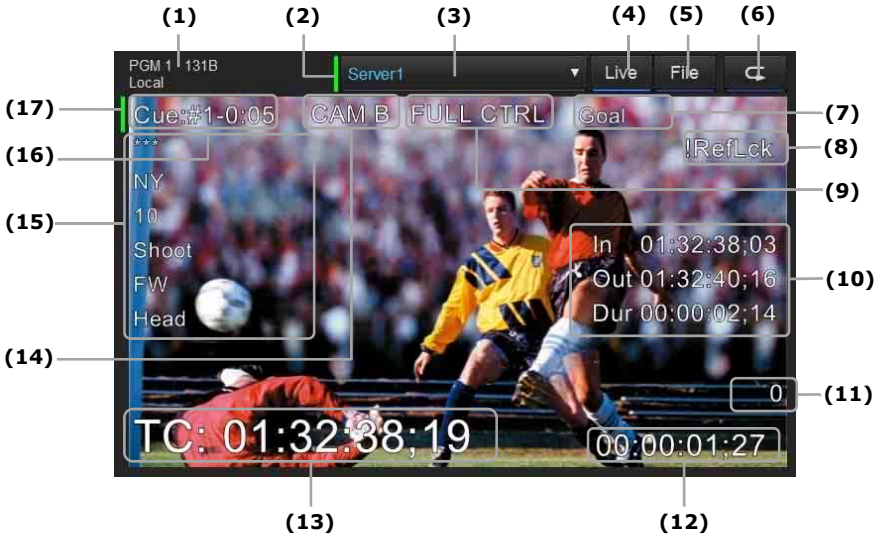
緑：残り時間が 30 分以下

赤：残り時間が 10 分以下

ビューアー

サーバーへの入力画像またはサーバーからの出力画像を表示します。

ビューアー（出力）



ビューアー（入力）

(1) 表示中の素材を示すラベル

セッティング画面の[Chase delay]で遅延再生が設定されている場合、遅延させる時間（秒）が括弧付きで表示されます。

(2) レコードトレイン用 Share Play インジケーター

選択されたサーバーのレコードトレインが Share Play 可能かどうかを示します。

緑：Share Play 可能

グレー：Share Play 不可

(3) レコードトレインとして選択中のサーバーを表示または選択

(4) [Live]ボタン

記録中のレコードトレインをロードして、ライブモードに切り換えます。

(5) [File]ボタン

サーバーに記録済みのレコードトレインを選択する画面が表示されます。

(6) ループボタン

(7) クリップ名（クリップのロード時に表示）

(8) リファレンス信号入力エラー表示

設定されているリファレンス信号の入力が正しくない場合に「!RefLck」が表示されます。

(9) PGM 出力の制御状態

制御されている場合は「FULL CTRL」、制御されていない場合は「NO CTRL」と表示されます。

Preview Control モードでは、PGM 側で PRV CTL がオンのときは「LEVER CTRL」、PRV CTL がオフのときは「FULL CTRL」と表示されます。

(10) IN 点、OUT 点、デュレーション

セッティング画面の［In/Out/Dur on OSD］が［Yes］に設定されている場合に表示されます。

(11) 速度状態

(12) デュレーションまたはカウントダウン

設定や操作の状況により、以下の情報が表示されます。

レコードトレインの操作中で IN/OUT 点が設定されていないとき：レコードトレインのデュレーション

レコードトレインに設定されている IN/OUT 点の間をサーチしているとき：デュレーション

上記以外のとき：IN 点または OUT 点までのカウントダウン

(13) タイムコード

(14) 入力名

ビューアー（出力）の場合は PGM 出力に割り当てられた入力名になります。

セッティング画面の［Port name］で入力名に任意の名称を設定している場合は、その名称が表示されます。

(15) メタデータ

セッティング画面の［Metadata on OSD］が［Yes］に設定されている場合に、クリップに登録されているレイティング、キーワードが表示されます。

(16) キューアップポイントのマーク番号（キューアップの操作時に表示）

(17) クリップ用 Share Play インジケーター

選択されたサーバーのクリップが Share Play 可能かどうかを示します。

緑：Share Play 可能

グレー：Share Play 不可

タイムコードの表示形式

タイムコードは、「hh:mm:ss;ff」(時:分:秒;フレーム)または「hh:mm:ss:ff」(時:分:秒:フレーム)の形式で表示されます。

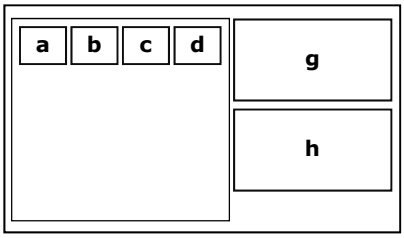
サーバーでDF(ドロップフレーム)モードに設定している場合はフレーム表示の前がセミコロン(;)に、NDF(ノンドロップフレーム)モードに設定している場合はフレーム表示の前がコロン(:)になります。

HFR で記録されている素材の場合は、セッティング画面で[HFR TC mode]を[Real time]に設定すると、「hh:mm:ss:ff.x」(時:分:秒:フレーム.サブフレーム)の形式で表示されます。

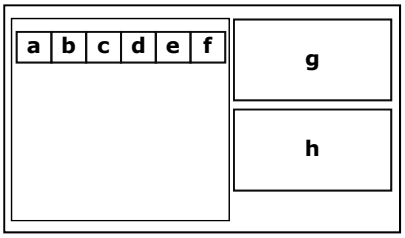
各ビューアーに表示される対象は以下のようになります。

1 デバイスモード/2 デバイスモード

4 アングルモード



6 アングルモード



ビューアー	2PGM モード	Preview Control モード	1PGM モード	Cut-out モード
a	入力 1	入力 1	入力 1	入力 1
b	入力 2	入力 2	入力 2	入力 2
c	入力 3	入力 3	入力 3	入力 3
d	入力 4	入力 4	入力 4	(未使用)
e	入力 5	入力 5	入力 5	(未使用)
f	入力 6	入力 6	入力 6	(未使用)
g	出力 1	PRV 出力	選択中の入力(1~6)	Cut-out 出力
h	出力 2	PGM 出力	出力 1	出力 1

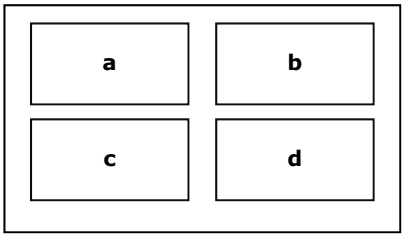
ご注意

プレイリストモードでは、ビューアー「g」、「h」はプレイリスト編集用の表示エリアになります(48 ページ)。

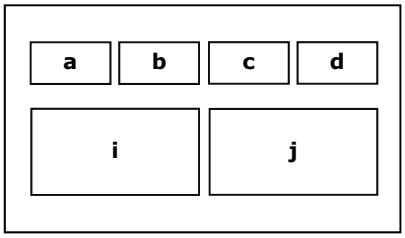
ビューアーモード

ビュー選択ボタンの[System]を選択した場合、以下のように自動的にレイアウトされます。

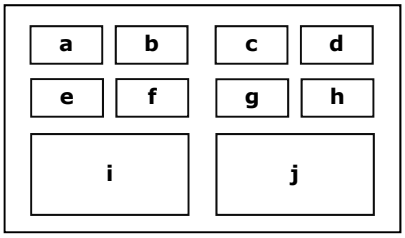
2 in+2 out / 3 in+1 out / 2 in+1 out



3 in+2 out / 4 in+2 out / 4 in+1 out



5 in+2 out / 6 in+2 out / 6 in+1 out



ビューアー	2PGM モード			1PGM モード	
	2 in+2 out	4 in+2 out	6 in+2 out (Multi) 5 in+2 out (Multi) 4 in+2 out 3 in+2 out (Multi)	3 in+1 out 2 in+1 out	6 in+1 out 4 in+1 out
a	入力 1	入力 1	入力 1	入力 1	入力 1
b	入力 2	入力 2	入力 2	入力 3	入力 2
c	出力 1	入力 3	入力 3	入力 2	入力 3
d	出力 2	入力 4	入力 4	出力 1	入力 4
e	—	—	入力 5	—	入力 5
f	—	—	入力 6	—	入力 6
g	—	—	—	—	—
h	—	—	—	—	—
i	—	出力 1	出力 1	—	—
j	—	出力 2	出力 2	—	出力 1

ビューアー	HFR (2Boards)				2DIO 構成	
	3 in+ 2 out	3 in+ 1 out	2 in+2 out 1 in+2 out	2 in+1 out	2 in+2 out 1 in+2 out	2 in+1 out 1 in+1 out 1 in+1 out (Cut-out)
a	入力 1	入力 1	入力 1	入力 1	入力 1	入力 1
b	入力 2	入力 3	入力 2	入力 2	入力 2	入力 2
c	入力 3	入力 2	出力 1	—	出力 1	出力 1
d	—	出力 1	出力 2	出力 1	出力 2	Cut-out 出力
e	—	—	—	—	—	—
f	—	—	—	—	—	—
g	—	—	—	—	—	—
h	—	—	—	—	—	—
i	出力 1	—	—	—	—	—
j	出力 2	—	—	—	—	—

ご注意

Preview Control モードでは、2PGM モードの出力 1 が PGM 出力、出力 2 が PRV 出力になります。

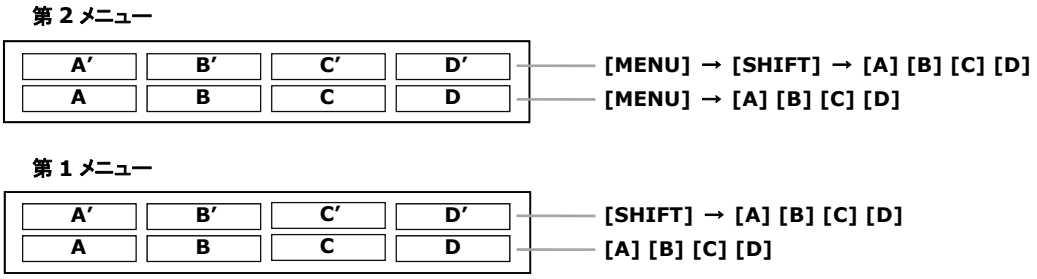
ソフトボタンメニュー

PWSK-4403 のソフトボタンに割り当てられた機能を表示します。操作中のモードや設定により、表示される項目は異なります。

ソフトボタンメニューは、第 1 メニューと第 2 メニューに分かれており、[MENU]ボタンを押して切り換えます。

- 第 1 メニュー
  主に PGM 出力やカメラの選択、セッティング画面の表示などに使用します。
- 第 2 メニュー
  主に機能の選択や設定の変更などに使用します。

ソフトボタンメニューの操作方法



第 2 メニューを選択する場合は、[MENU]ボタンを押します。第 2 メニューの項目が表示され、[MENU]ボタンが赤で点滅します。

第 1 メニューに戻る場合は、もう一度[MENU]ボタンを押して消灯させます。

選択中のメニューはハイライト表示されます。

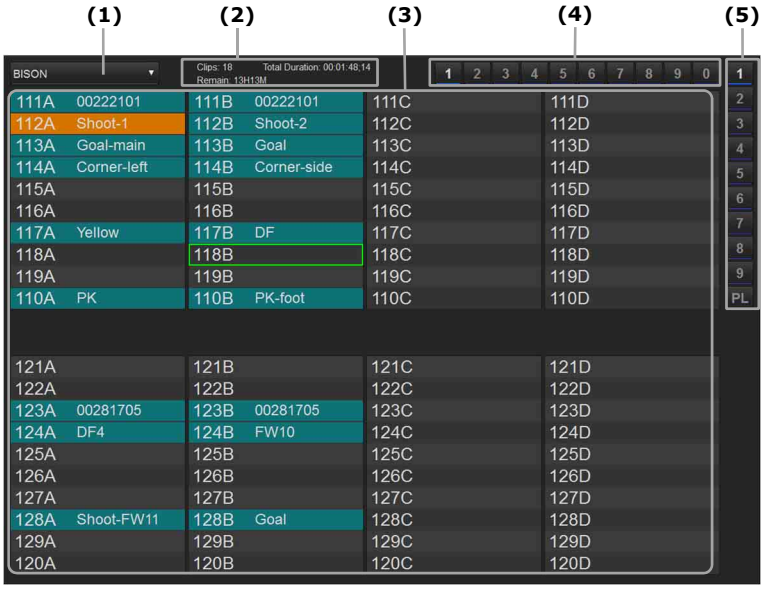
第 1 メニュー、第 2 メニューの下段の項目（A/B/C/D）は、対応するソフトボタン[A][B][C][D]を押して選択します。

上段の項目（A′/B′/C′/D′）は、[SHIFT]ボタンを押してから、対応するソフトボタン[A][B][C][D]を押して選択します。

クリップリスト／プレイリスト一覧

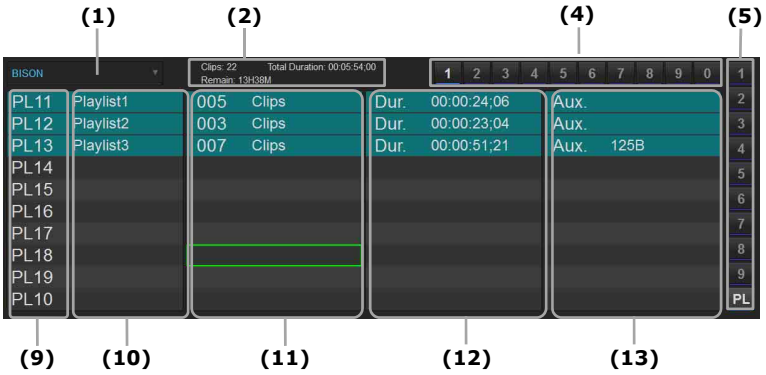
バンクごとにクリップの一覧を表示します。バンク 10（PL）はプレイリストの管理に使用します。

クリップリストに表示されるカメラアングルの数は、アングルモードの設定により異なります。



クリップ情報

プレイリスト一覧（バンク 10（PL））



(1) サーバー選択リストボックス

クリップが登録されているサーバーを選択します。

(2) サーバーステータス表示

選択されているサーバーのクリップリストに登録されているクリップ数とその合計時間、サーバーで記録可能な残り時間が表示されます。

(3) クリップ情報の一覧

各バンクに登録されているクリップの一覧を確認できます。上段には選択したバンクが表示されます。下段はモードによって表示内容が異なります。

(4) ページ切り換えボタン

(5) バンク切り換えボタン

現在選択中のバンク番号がハイライト表示されます。マウス／タッチパネルで操作するときに、各ボタンをクリック／タップしてバンクを切り換えます。

バンク番号は、ビューアーモードの操作画面の下部にも表示されます。

(6) クリップ ID

クリップを特定するための識別名で、「ページ番号＋バンク番号＋クリップ番号＋カメラアングル」で構成されています。

たとえば、「123A」はページ 1、バンク 2、クリップ 3、カメラアングル A のクリップを示します。アーカイブ指定されているときやアーカイブの実行中は、クリップ ID の背景が緑になり、クリップ ID の下にプログレスバーが表示されます。

(7) クリップ名

クリップに名前を付けている場合に表示されます。

ネットワークコピーが指定されているときやネットワークコピーの実行中は、クリップ名の下にプログレスバーが表示されます。

(8) Share Play インジケーター

ネットワークサーバー上のクリップの場合、Share Play 可能かどうかを示します。

緑：Share Play 可能

グレー：Share Play 不可

(9) プレイリスト ID

プレイリストを特定するための識別名で、「PL＋ページ番号＋プレイリスト番号」で構成されます。

たとえば、「PL12」はページ 1、プレイリスト番号 2 のプレイリストを示します。

クリップがアーカイブ指定されているときやアーカイブの実行中は、プレイリスト ID の背景が緑になり、プレイリスト ID の下にプログレスバーが表示されます。

(10) プレイリスト名

プレイリストに名前を付けている場合に表示されます。

(11) プレイリスト内のクリップ数

(12) プレイリスト内のクリップの合計時間

(13) オーディオクリップ情報

オーディオクリップがプレイリストに設定されているときに、オーディオクリップのクリップ ID が表示されます。

クリップ情報の表示色

クリップが保存されている場合は、クリップ情報の背景が青で表示されます。

クリップを選択してロードすると、クリップ情報の背景がオレンジに変わります。

クリップが記録中のビデオフォーマットと異なる場合は、クリップ情報の背景がダークグリーンで表示されます。

アーカイブが完了したクリップ／プレイリストのクリップ ID／プレイリスト ID の背景は緑で表示されます。

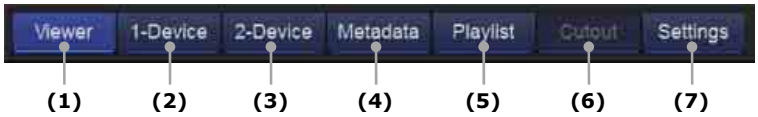
アーカイブに失敗したクリップ／プレイリストのクリップ ID／プレイリスト ID の背景は赤で表示されます。

ご注意

- 背景がダークグリーンのクリップはロードできません。
- アーカイブが完了したプレイリスト ID の背景は、PWA-PRC1 を再起動すると青に戻ります。

モード／セッティング画面切り換えボタン

マウス／タッチパネルで操作するときに、各ボタンをクリック／タップして操作モードおよびセッティング画面の切り換えを行います。
操作モードは、キーボード操作で切り換えることもできます。



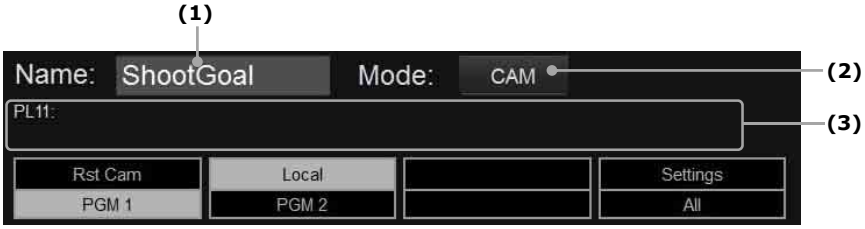
(1) ビューアーモード切り換えボタン
(2) 1 デバイスモード切り換えボタン
(3) 2 デバイスモード切り換えボタン
(4) メタデータ設定モード切り換えボタン
(5) プレイリストモード切り換えボタン
(6) カットアウトモード切り換えボタン
(7) セッティング画面切り換えボタン

キーボードでの操作モード切り換え操作

F6 キー: ビューアーモード切り換え
F7 キー: 1 デバイスモードと 2 デバイスモードを交互に切り換え
F8 キー: メタデータ設定モード切り換え
F9 キー: カットアウトモード切り換え
F10 キー: プレイリストモード切り換え
Shift + F2 キー: セッティング画面切り換え

情報表示エリア

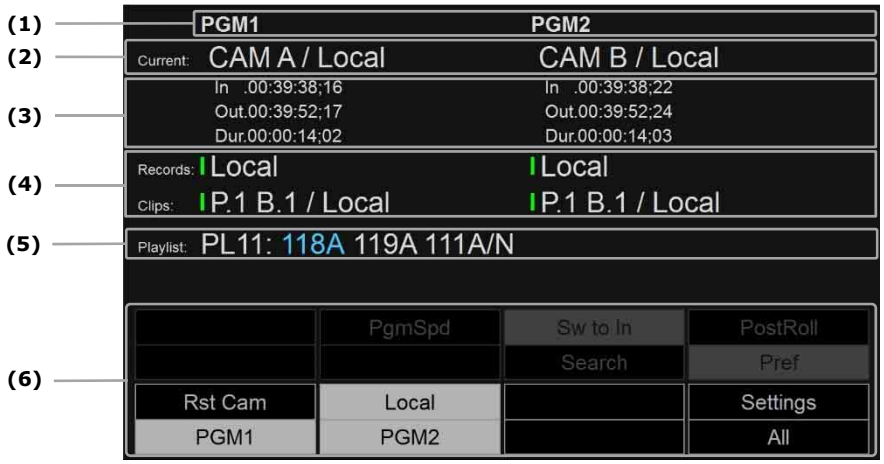
操作対象のプレイリスト ID や、プレイリストに登録されているクリップ ID などの情報やメッセージが表示されます。



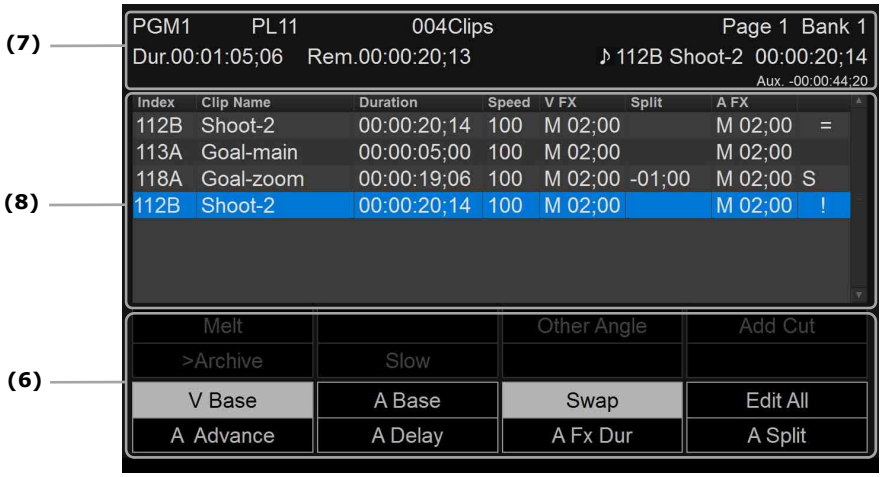
(1) Name 欄
文字列を入力して、クリップ名によるクリップの検索を行うことができます。検索の方法は、「クリップ名検索」(45 ページ)を参照してください。
(2) CAM モード／Clip モード切り換えボタン
(3) 情報表示

サブモニター

操作パネルごとに設定や制御の状況などを表示するためにサブモニターを使用できます。



プレイリストモード時



(1) PGM 名

ループ再生が有効になっているときは PGM 名の隣に が表示されます。

セッティング画面の[Chase delay]が設定されている場合、PGM 名の後に設定値が括弧付きで表示されます。

セッティング画面の[Port name]で PGM 名に任意の名称を設定している場合、その名称が表示されます。

(2) PGM 出力への入力の割り当て状況

(3) IN 点、OUT 点、デュレーション

セッティング画面の[In/Out/Dur on OSD]が[Yes]に設定されている場合に表示されます。

(4) 操作中のサーバー情報、ページ番号、バンク番号

操作中のサーバー情報、ページ番号、バンク番号などの情報やメッセージが表示されます。

(5) 選択中のプレイリスト ID と登録されているクリップ一覧

選択中のクリップの文字は青色になります。

(6) ソフトボタンメニュー

(7) プレイリスト情報

操作中のプレイリスト情報が表示されます。

(8) プレイリスト登録クリップ情報

操作中のプレイリストに登録されているクリップの情報が表示されます。

選択中のクリップの背景は青で表示されます。

準備

レコードトレインの管理

PWA-PRC1 を起動すると、サーバー上に記録用のファイルが作成されます。このファイルを「レコードトレイン」と呼びます。
レコードトレインは入力チャンネルごとに作成され、自動的に名前が付けられます。
PWA-PRC1 を終了するときに、レコードトレインの記録を終了して全ポートをクローズするか、または記録を継続するかを選択するメッセージが表示されます。

レコードトレインには、「通常記録モード」と「ループ記録モード」の 2 種類の記録モードがあり、サーバーの Web メニューで設定します。記録モードは、サーバーのすべての入力ポートに対して同じモードに設定してください。また、PWA-PRC1 のセッティング画面の[Loop REC]もサーバーと同じ記録モードに設定してください。
サーバーの記録モードと[Loop REC]の設定が異なると、PWA-PRC1 の起動時にエラーメッセージが表示され、レコードトレインの記録は開始されません。

通常記録モード

レコードトレインの記録は 23 時間 55 分を超えるか、空き容量がなくなると自動的に停止します。いずれかのレコードトレインの記録が停止すると、すべての記録が停止します。停止すると[RECORD]ボタンは消灯します。
HFR 記録の場合も、記録時間は実時間で記録制御を行います。

ループ記録モード

サーバーで設定したレコードトレインの容量に達すると、先頭に戻って記録を続けます。クリップを登録すると、その領域は上書きされないため、空き容量が減少します。
24 時間に達するか、レコードトレインの空き容量がなくなるまで記録を継続します。

サーバーでの記録可能な残り時間が少なくなると、警告が表示されます。
警告表示については、「サーバーのステータス表示」(11 ページ)を参照してください。
空き容量を確保するには、サーバーの Web メニューから FS Format を実行して、サーバーの内容を空にしてください。
FS Format を実行すると、作成したクリップもすべて削除されます。必要なレコードトレインやクリップは、別のメディアなどに保存してください。

サーバーの Web メニューの操作や設定については、サーバーのオペレーションマニュアルを参照してください。

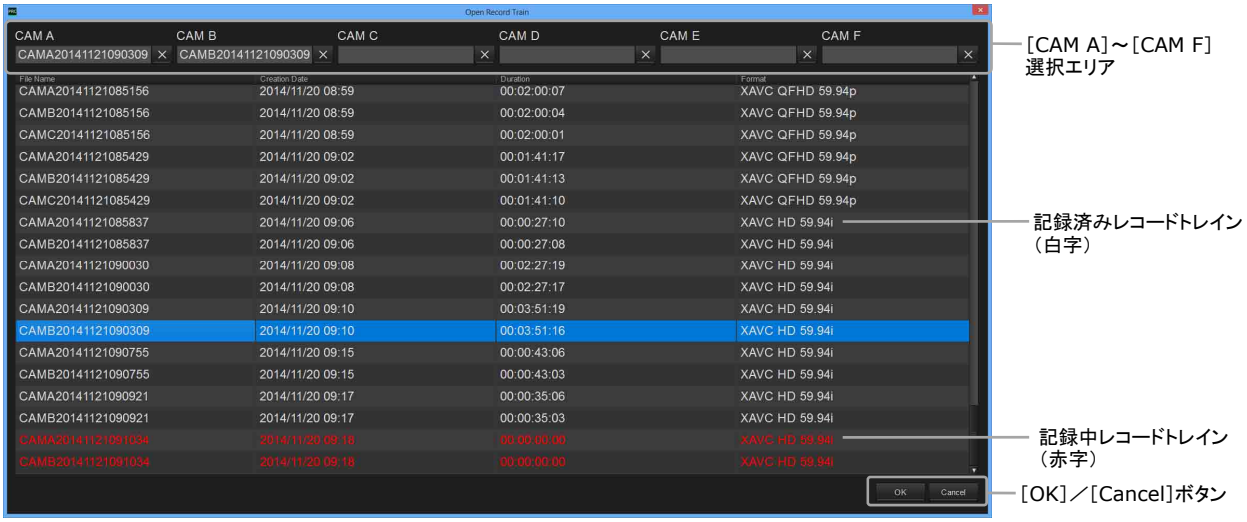
ご注意

- レコードトレインは Media Gateway から削除できます。削除を行う前に PWA-PRC1 を終了し、レコードトレインの記録の終了と全ポートのクローズを行ってください。ポートをクローズするには、終了時のポート閉鎖確認メッセージで[OK]ボタンをクリック／タップします。

- FS Format 実行後も、プレイリスト設定情報とカットアウトデータは削除されません。FS Format 後に、セッティング画面の[Clear all playlist/cutout data]で[Clear]ボタンをクリック／タップしてプレイリスト設定情報とカットアウトデータを削除してください。
- ループ記録モードでリトリーブ運用を行う場合は、サーバーの「Remain Area」を確保してループ記録領域を設定してください。
- ループ記録モードでは、空き容量が 5 分未満となった場合、クリップの保存ができなくなります。
- 記録中にサーバーの電源が落ちた場合など、レコードトレインが正しく終了されなかったときはサーバーでファイルの修復が必要です。

サーバーに記録済みのレコードトレインにアクセスするには

1 デバイスモードまたは 2 デバイスモードの操作画面で[File]ボタンをクリック／タップすると、サーバーに記録済み、および記録中のレコードトレインの設定ダイアログが表示されます。



操作画面の[File]ボタン→記録済みレコードトレインの選択→ [CAM A]～[CAM F]選択エリアにドラッグ＆ドロップ→[OK]ボタン

- 選択エリアに設定したレコードトレインをクリアするには、エリア内の[×]ボタンをクリック／タップします。
- 記録済みのレコードトレインを選択し、[OK]ボタンをクリック／タップした直後、選択したレコードトレインが該当するPGMにロードされ、セッティング画面の[Default cue up]で設定された位置にキューアップされます。記録中のレコードトレインを選択した場合、操作モードはライブモードになります。
- 記録済みのレコードトレインがアクティブのときに[RECORD]ボタンを押すと、選択したレコードトレインのセッティング画面の[Default cue up]で設定された位置にキューアップされます。
- ライブモードに戻るには、操作画面の[Live]をクリック／タップします。

ご注意

記録中のビデオフォーマットと異なるレコードトレインはアクティブなレコードトレインに設定できません。

アプリケーションの起動と終了

起動

1. PWA-PRC1 をインストールしたコンピューター、PWSK-4403、サーバーの電源を入れる。
PWSK-4403 のファンクションボタン[F1]～[F10]と[ENTER]ボタンが青で点灯します。

2. スタート画面の「PWA-PRC1」をクリック／タップするか、またはデスクトップ上の「PWA-PRC1」アイコンをダブルクリック／ダブルタップする。
PWA-PRC1 が起動します。
セッティング画面に登録された情報により、自動的にサーバーに接続します。

PWA-PRC1 を初めて起動する場合またはサーバーに接続できなかった場合

IP アドレスの入力画面が表示されます。次の手順に従います。

1. PRC Manager がインストールされているコンピューターの IP アドレスを入力し、[Set]をクリック／タップする。
ネットワーク上に接続されているサーバーが[Servers]リストボックスで選択できるようになります。

2. [Servers]リストボックスで、ローカルサーバーにするサーバーを選択する。
PWA-PRC1 が起動します。
セッティング画面に登録された情報により、自動的にサーバーに接続します。

サーバーとの接続が完了すると PWA-PRC1 の操作画面に情報が反映され、レコードトレインの記録を開始します。

PWSK-4403 のファンクションボタン[F1]～[F10]には、クリップの登録状況が反映されます（クリップが登録されている場合は緑で点灯、登録されていない場合は消灯）。

ご注意

- PWA-PRC1 を起動するときは、PRC Manager があらかじめ起動されている必要があります。PRC Manager の起動方法については、『インストレーションガイド』を参照してください。
- PWA-PRC1 の初期設定では、ループ記録モードが無効に設定されています。サーバーの設定がループ記録モードの場合は、PWA-PRC1 の起動後にセッティング画面で[Loop REC]を有効に設定してください。
- 画面のテキストサイズは変更しないでください。

終了

1. PWSK-4403 の[SHIFT]ボタンを押してからソフトボタン[D]（Settings）を押す。
セッティング画面が表示されます。
キーボードの Shift + F2 キーを押してセッティング画面を表示することもできます。

2. [SHIFT]ボタンを押してからソフトボタン[A]（Exit App）を押す。
確認メッセージが表示されます。
レコードトレインの記録を終了して全ポートをクローズする場合は[OK]ボタン、記録を継続する場合は[Cancel]ボタンをクリック／タップします。
マウス／タッチパネルでアプリケーションウィンドウ右上の「 ☒ 」ボタンをクリック／タップして、PWA-PRC1 を終了することもできます。

基本操作

操作モード

PWA-PRC1 では、基本となる 3 つの操作モードがあります。

ライブモード

[RECORD]ボタンを押すと、ライブモードに切り換わります。
レコードトレインに記録中の画像を、同時に再生します。
また、記録中の CAM の縮小ビューアーを、ビューアーにドラッグ＆ドロップするかダブルクリック／ダブルタップしても、ライブモードになります。
ドラッグ＆ドロップした場合は、ドロップしたビューアーでそのレコードトレインを再生します。ダブルクリック／ダブルタップした場合は、コントロール対象となっている PGM にレコードトレインをロードして再生します。
セッティング画面の[Chase delay]を設定することで、ライブモード時の画像を遅延再生させることができます。

サーチモード

ジョグダイヤルを動作させると、サーチモードに切り換わります。
ジョグダイヤルを回転させて前方向／後方向に検索しながら、目的のタイムコード位置や画像に移動します。

再生モード

フェーダーレバーを動作させるか、または[PLAY]ボタンを押すと、再生モードに切り換わります。
特定のタイムコード位置から再生を開始したり、ロードしたクリップを再生したりします。フェーダーレバーでは、再生速度をコントロールできます。

PGM モード

サーバーの I/O 構成により、PGM モードが自動的に設定されます。

2PGM モード

I/O 構成の出力側が 2 out の場合、2PGM モードに設定されます。
2PGM モードでは、ソフトボタンメニューで制御対象の PGM 出力を[PGM 1]または[PGM 2]から選択します。
両方を同時に制御するときは、[All]を選択します。
初期設定では、[PGM 1]に[CAM A]、[PGM 2]に[CAM B]が割り当てられています。
[TAKE]ボタンを押すと、ソフトボタンメニューがカメラ選択の表示に切り換わり、カメラの割り当てを変更できます。
このモードでは、PWSK-4403 を 2 台接続できます。
Panel1 と識別された操作パネルを PGM1 出力の制御、Panel2 と識別された操作パネルを PGM2 出力の制御に使用します。
操作パネルの識別については、「設定」（70 ページ）を参照してください。

2PGM モードのときに、セッティング画面の[Multi playlist]を[Enable]に設定すると、片方の PGM でプレイリストを再生しながら、もう片方の PGM で別のプレイリストの編集や再生を行うことができます。また、プレイリストの代わりにレコードトレインやクリップを再生することもできます。
Multi playlist を有効にするには、以下の設定が必要です。

- I/O 構成：出力側 2 out
- 使用操作パネル数：1 台
- セッティング画面の Preview control mode 設定：Disable
- セッティング画面の Effect by two ports 設定：Disable
- セッティング画面の Multi playlist 設定：Enable

PGM1 でプレイリスト再生中に PGM2 で別のプレイリストを編集、再生（操作例）

1. ソフトボタン[A]（PGM1）を押して PGM1 をコントロール対象にする。
2. [PLST]ボタンを 3 回押してプレイリストプレイアウトモードに切り換える。
3. [PLAY]ボタンまたはフェーダーレバーを使用してプレイリストを再生する。
4. [TAKE]ボタンを押してプレイリストモードから操作画面に切り換える。
5. ソフトボタン[B]（PGM2）を押して PGM2 をコントロール対象にする。
6. [SHIFT]+[F10]を押し、緑点灯の[F1]～[F10]ボタンで別のプレイリストを選択する。
7. [PLST]ボタンを押してプレイリスト編集モードに切り換え、プレイリストを編集する。
8. [PLST]ボタンを 2 回押してプレイリストプレイアウトモードに切り換え、プレイリストを再生する。

ご注意

PGM1 と PGM2 に同時に同じプレイリストをロードすることはできません。

1PGM モード

I/O 構成の出力側が 1 out の場合、1PGM モードに設定されます。
1PGM モードでは、ソフトボタンメニューで PGM 出力に割り当てるカメラを選択します。

カメラ選択の操作

[CAM A]～[CAM D]までが割り当てられている場合は、ソフトボタンメニューの[CAM A]、[CAM B]、[CAM C]、[CAM D]から目的のカメラを選択します。
[CAM E]、[CAM F]が割り当てられているときに[CAM D]～[CAM F]を選択する場合は、ソフトボタン[D]（--->）を押します。ソフトボタンメニューが[CAM D]、[CAM E]、[CAM F]の表示に切り換わり、目的のカメラを選択できます。
ソフトボタン[D]（<---）を押すと、[CAM A]、[CAM B]、[CAM C]の表示に戻ります。

Preview Control モード

Preview Control モードを使用して、オンエア中に次の画を確認しながら送信準備し、任意の場所で画を切り替えることができます。

Preview Control モードを使用するには以下の設定が必要です。

- I/O 構成: 出力側 2 out
- セッティング画面の Preview control mode 設定: Enable
- 使用操作パネル数: 1 台

再生中の PGM 画の PRV 画への切り換え

1. レコードトレイン、または再生するクリップをロードする。

2. 再生開始点をサーチする。

3. [PLAY]ボタンまたはフェーダーレバーを使用してクリップを再生する。

4. [PRV CTL]ボタンを押して PRV 側をコントロールする。

5. レコードトレイン、または再生するクリップを PRV 側にロードする。

6. ジョグ操作で画探しをして頭出しをする。

7. [TAKE]ボタンを押す。

PGM 側の出力画が PRV 画に切り換わります。

エフェクト設定がある場合は、エフェクト付きで切り換わります。

ご注意

- オーディオデータへのエフェクト効果はありません。
- [PLAY]ボタンとフェーダーレバー操作は、[PRV CTL]ボタンが赤点滅時は PGM 側に有効で、消灯時は PRV 側/PGM 側に有効です。
- ジョグ操作は、[PRV CTL]ボタンが赤点滅時は PRV 側に有効で、消灯時は PRV 側/PGM 側に有効です。
- HFR で記録されたクリップから通常のクリップに切り替えるなど、フレームレートが異なるクリップを切り替えた場合、切り替え前のクリップの実時間の再生速度で切り換え後のクリップが再生されます。

ソフトボタンメニューの項目

モードや設定などにより、表示される項目は異なります。

第 1 メニュー

項目	内容
PGM x	（2PGM モードのみ） [PGM x]を制御対象に選択する。
CAM x	[CAM x]を PGM 出力に割り当てる。
---> / <---	--->:[CAM D]、[CAM E]、[CAM F]の選択表示に切り換える。 <---:[CAM A]、[CAM B]、[CAM C]の選択表示に戻る。
All	（2PGM モードのみ） 両方の PGM 出力を制御対象にする。
Rst Cam	PGM 出力へのカメラの割り当てを初期設定に戻す。
Local	クリップ、レコードトレインの対象サーバーをローカルサーバーにする。 この機能は、キーボードの Alt + L キーを押して実行することもできます。
Settings	セッティング画面を表示する。
Sync Prv	PRV を PGM と同じタイムコード、同じ速度に同期させる。

ご注意

ソフトボタンメニュー[Sync Prv]は、PGM 側が停止時のみ有効です。

第 2 メニュー

項目	内容
PgmSpd / VarMax	PgmSpd:0%以外は、フェーダーレバーの位置にかかわらず設定値の速度で再生する。 VarMax:フェーダーレバーの位置に対応して、0%～設定値までの速度で再生する。 OFF:フェーダーレバーの位置に対応して、0%～100%の速度で再生する。 • 設定値はセッティング画面で設定します。 • [PLAY]ボタンの場合、[PgmSpd]または[VarMax]を選択すると、設定値の速度で再生します。
PostRoll	OFF:OUT 点に達したあと、再生を停止する。 ON:OUT 点に達したあと、設定した時間再生を続けてから停止する。 • 設定時間はセッティング画面で設定します。
Sw to In	OFF:カメラアングル切り換え時、現在のタイムコード位置で切り換える。 ON:カメラアングル切り換え時、IN 点が設定されているときは、IN 点で切り換える。 IN 点が設定されていないときは、現在のタイムコード位置で切り換える。
Effect	トランジションエフェクト（Cut、Mix または White Flash）を設定する。
Pref	Preference モードに切り換える。 OFF: Preference モード無効（現在選択されているカメラアングルでクリップをロードする） ON: Preference モード有効（カメラアングルの優先順位に従ってクリップをロードする）
Search	検索モードに切り換える。

クリップ管理

クリップは、ページ番号、バンク番号、クリップ番号で管理されます。
サーバー上には、ページが 10（1～10）、各ページにクリップ用のバンクが 9（1～9）あります。各バンクは 10 のクリップで構成され、クリップごとに A～F までのカメラアングルを保存できます。

クリップの基本操作

クリップの作成・保存

[IN]ボタン（IN 点を設定）→[OUT]ボタン（OUT 点を設定）→空のクリップ番号を選択

- クリップの保存には、10 フレーム以上のデュレーションが必要です。
- IN 点前と OUT 点後に、それぞれ 5 秒のガードバンドが付加されてクリップが保存されます。
- ガードバンドの長さを変更する場合は、セッティング画面の[Guardbands]で設定をしてください。設定の詳細は「設定」（70 ページ）を参照してください。
- [CLEAR]→[IN]/[OUT]ボタンで、設定されている IN/OUT 点をクリアできます。
- クリップの保存時に、そのクリップをロードするときに優先されるアングルが設定されます。優先されるアングルは、コントロール対象となっている PGM にロードされているアングルをもとに第 1 優先アングル、第 2 優先アングルの順に設定されます。
  どちらの優先アングルとして設定されたかは、クリップリスト上のクリップ ID の末尾の表示で確認できます。第 1 優先アングルには「*」、第 2 優先アングルには「=」が表示されます。
  クリップの保存後に優先アングルを変更するには、クリップリストでクリップを選択してから、キーボードの F4 キーで第 1 優先アングルに、Ctrl+F4 キーで第 2 優先アングルに変更できます。
- セッティング画面の[Auto name clips]で命名規則を設定することで、クリップの新規作成時に自動的にクリップ名を付けることができます。また、すでに保存されているクリップについては、メタデータ設定モードでクリップ名を登録、変更することができます（37 ページ）。

クリップのロード

ページ番号を選択→バンク番号を選択→クリップ番号を選択

- クリップがロードされると選択したファンクションボタン[F1]～[F10]が赤で点灯し、IN 点にキューアップします。再生を開始するときは、[PLAY]ボタンを押します。
- 選択したファンクションボタン[F1]～[F10]を複数回押して、カメラアングルを切り換えることができます。
- Preference モードが On になっているときは、優先アングルに従ってコントロール対象となっている PGM にクリップがロードされます。
- キーボード操作の場合は、クリップを選択して Enter キーを押します。再生を開始するときは、Alt ＋ P キーを押します。
  Name 欄にクリップ ID を入力し、F3 キーを押して呼び出すこともできます。クリップ ID の入力は、カメラアングルまで指定します。また、複数の PGM 出力が制御対象となっている場合には、同じカメラアングルのクリップが呼び出されます。
- マウス／タッチパネル操作の場合は、クリップをダブルクリック／ダブルタップまたはクリップをビューアーにドラッグ＆ドロップします。

クリップの削除

ページ番号を選択→バンク番号を選択→[CLEAR]ボタン→クリップ番号を選択→
確認メッセージで[ENTER]ボタン

- 削除を中止する場合は、確認メッセージで[MENU]ボタンを押します。
- 選択したクリップのすべてのカメラアングルが削除されます。
- クリップのロード中やプレイリストモードのときは、クリップの削除はできません。
- クリップを削除しても、レコードトレインの記録データは削除されません。
- キーボード操作の場合は、クリップを選択して Ctrl + Delete キーを押し、確認メッセージで Enter キー（中止する場合は Esc キー）を押します。
- セッティング画面の[Protect pages]で指定したページに登録されているクリップは削除できません。
  セッティング画面で[Clear all clips]を実行した場合も、プロテクトを設定しているページのクリップは削除されません。
  サーバーで FS Format を実行した場合は、プロテクトを設定しているページのクリップも削除されます。

クリップのコピー

コピーするクリップをロード→空のクリップ番号を選択→確認メッセージでソフトボタン[A]（Copy）→
[ENTER]ボタン

- コピーを中止する場合は、確認メッセージで[MENU]ボタンを押します。
- 確認メッセージでソフトボタン[D]（CAM または Clip）を押して、Clip モードまたは CAM モードを選択できます。
  Clip モードではすべてのカメラアングル、CAM モードではロード中のカメラアングルのみをコピーします。
- キーボード操作の場合は、コピーするクリップを選択して Ctrl + C キーを押し、空のクリップ番号を選択して Ctrl + V キーを押します。
- マウス／タッチパネル操作の場合は、コピーするクリップを選択し、空のクリップ番号にドラッグ &ドロップします。

クリップの移動

移動するクリップをロード→空のクリップ番号を選択→確認メッセージでソフトボタン[B]（Move）→
[ENTER]ボタン

- 移動を中止する場合は、確認メッセージで[MENU]ボタンを押します。
- 確認メッセージでソフトボタン[D]（CAM または Clip）を押して、Clip モードまたは CAM モードを選択できます。
  Clip モードではすべてのカメラアングル、CAM モードではロード中のカメラアングルのみを移動します。
- キーボード操作の場合は、移動するクリップを選択して Ctrl + X キーを押し、空のクリップ番号を選択して Ctrl + V キーを押します。
- マウス／タッチパネル操作の場合は、移動するクリップを選択し、キーボードの Shift キーを押しながら空のクリップ番号にドラッグ &ドロップします。

クリップのアーカイブ

Media Gateway と連携してクリップを保管します。

クリップをロード→[MENU]ボタン→ソフトボタン[A]（>Archive）

- ソフトボタンメニューで[Clip]を選択している場合はすべてのカメラアングル、[CAM]を選択している場合はロード中のカメラアングルのみをアーカイブします。
- アーカイブ指定されているときやアーカイブの実行中は、クリップリストのクリップ ID 部分の背景が緑になり、クリップ ID の下にプログレスバーが表示されます。
- キーボード操作の場合は、クリップを選択して Alt + Z キーを押します。
- リンククリップ（68 ページ）に対してアーカイブ操作を行った場合は、ネットワークサーバーにある実体クリップがアーカイブされます。アーカイブされたクリップに含まれるメタデータは、リンククリップに設定されたメタデータではなく、実体クリップに設定されたメタデータとなります。リンククリップのメタデータをアーカイブに含めたいときは、「ネットワークサーバーからローカルサーバーへのクリップコピー」（32 ページ）を行ってから「クリップのアーカイブ」（31 ページ）を行ってください。

ご注意

次の場合、セッティング画面の[Media Gateway]の[Refresh]ボタンをクリック／タップしてドライブ情報を再取得してください。

- アーカイブ先のドライブの接続に変更があった
- メディアを入れ換えた
- Server transfer IP の変更および削除を行った

クリップの IN/OUT 点変更

クリップをロード→IN/OUT 点を設定 ガードバンドを含むクリップの先頭／末尾に IN/OUT 点を設定する場合： [CLEAR]ボタン→[IN]または[OUT]ボタン クリップの任意の位置に IN/OUT 点を設定する場合： 設定したい位置で[IN]または[OUT]ボタン

クリップのタイムコード変更

クリップをロード→[MENU]ボタン→ソフトボタン[C]（Metadata）→ [SHIFT]ボタン→ソフトボタン[C]（Set TC）→ タイムコード設定画面でタイムコード（時：分：秒：フレーム）を入力→[ENTER]ボタン

- 途中で操作をキャンセルするには[MENU]ボタンを押します。
- ファンクションボタン[F1]～[F10]（1～0 の数字に対応）またはキーボードでタイムコードを入力します。
- ソフトボタン[A]を押して、設定値の反映先を指定できます。

  Current TC：設定したタイムコードをビューアー上の現在位置に設定します。

  Start TC: 設定したタイムコードを Start TC（ガードバンドの先頭のタイムコード）に設定します。

  In TC: 設定したタイムコードを IN 点のタイムコードに設定します。
- ソフトボタン[D]（CAM または Clip）を押して、タイムコードの変更対象クリップを選択できます。

  「CAM」はロード中のクリップのみ、「Clip」はすべてのアングルのクリップに対してタイムコードを設定します。

- セッティング画面の[HFR TC mode]を[HFR]に設定した場合、設定値の反映先は Start TC に固定されます。
- キーボード操作の場合は、クリップを選択して Alt + T キーを押し、タイムコード設定画面でタイムコードを入力して Enter キーを押します。

ご注意

リンククリップ(68 ページ)のタイムコードは変更できません。変更したい場合は[Copy to local]機能を使用してください。

ネットワークコピー

ネットワークに接続されているサーバー間でクリップのコピーを行うことができます。ネットワークコピーでは、ガードバンドを含むクリップ全体がコピーされます。また IN 点と OUT 点の設定も保持されます。

ローカルサーバーからネットワークサーバーへのクリップコピー

コピーするクリップをロード→[NETWORK]ボタン([SHIFT]→[PLAY])→ソフトボタン[B](Clips)→
ファンクションボタン[F1]～[F10]でネットワーク上のサーバーを選択→空のクリップ番号を選択→
確認メッセージで[ENTER]ボタン

- クリップ選択時に、ページ／バンクを切り換えることができます。
  [SHIFT]ボタン→[PRV CTRL]ボタン:ページ表示
  [SHIFT]ボタン→ファンクションボタン[F1]～[F10]:バンク表示
- 確認メッセージでソフトボタン[D](CAM または Clip)を押して、Clip モードまたは CAM モードを選択できます。
  Clip モードではすべてのカメラアングル、CAM モードではロード中のカメラアングルのみをコピーします。
- コピーの実行中は、クリップリストのコピー元クリップ名部分の下にプログレスバーが表示されます。
- コピー中はコピー先クリップの[F]ボタンが緑で点滅します。このときに、[CLEAR]ボタンを押してから点滅中の[F]ボタンを押すことでコピーを中止できます。

ネットワークサーバーからローカルサーバーへのクリップコピー

[NETWORK]ボタン([SHIFT]→[PLAY])→ソフトボタン[B](Clips)→
ファンクションボタン[F1]～[F10]でネットワーク上のサーバーを選択→コピーするクリップをロード→
ソフトボタン Local([SHIFT]→[B])→空のクリップ番号を選択→確認メッセージで[ENTER]ボタン

- コピーするクリップをロードできなかった場合は、ネットワークコピーダイアログが表示されますので、ダイアログに従って操作してください。
- コピーの実行中は、クリップリストのコピー元クリップ名部分の下にプログレスバーが表示されます。
- コピー中はコピー先クリップの[F]ボタンが緑で点滅します。このときに、[CLEAR]ボタンを押してから点滅中の[F]ボタンを押すことでコピーを中止できます。

マウス／タッチパネルでのネットワークコピー操作

操作画面の切り換え: 操作画面の[2-Device]をクリック／タップ
クリップリストエリアの下部が別のサーバーを選択できる状態に切り換わります。

サーバーの選択: 画面上の Server Name 選択ボックスからネットワークサーバーをクリック／タップで選択

ネットワークコピー実行: コピーするクリップを選択し、コピー先の空きクリップ番号へドラッグ &ドロップ

プッシュ機能（ネットワーク上のサーバーへのクリップ転送）

指定したネットワーク上のサーバーにクリップを転送（コピー）できます。

プッシュ機能を使用する場合は、あらかじめセッティング画面で[Push]、[Push receive page]、[Push machine]、[Push target]を設定しておく必要があります。

コピーするクリップをロード→[MENU]ボタン→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[A]（Push）→ 確認メッセージで[ENTER]ボタン

- 転送したクリップは受信ページの空きクリップ番号にコピーされます。空きクリップ番号がない場合は、警告メッセージが表示されます。
- セッティング画面の[Push page/bank dialog]を[Yes]に設定すると、ソフトボタン[A]（Push）を押した際にダイアログが表示され、転送するクリップのページ番号とバンク番号を指定することができます。
  ページを指定する場合： ソフトボタン[A]（Page）を押し、ファンクションボタン[F1]～[F10]でページ番号を指定します。
  バンクを指定する場合： ソフトボタン[B]（Bank）を押し、ファンクションボタン[F1]～[F9]でバンク番号を指定します。
- コピーの実行中は、クリップリストのコピー元クリップ名部分の下にプログレスバーが表示されます。
- コピー中はコピー先クリップの[F]ボタンが緑で点滅します。このときに、[CLEAR]ボタンを押してから点滅中の[F]ボタンを押すことでコピーを中止できます。
- 確認メッセージでソフトボタン[D]（CAM または Clip）を押して、Clip モードまたは CAM モードを選択できます。
  Clip モードではすべてのカメラアングル、CAM モードではロード中のカメラアングルのみをコピーします。

ソフトボタンメニューの項目

モードや設定などにより、表示される項目は異なります。

第 1 メニュー

項目	内容
CAM x	カメラアングルを選択する。
Rst Cam	PGM 出力へのカメラの割り当てを初期設定に戻す。
Local	クリップ、レコードトレインの対象サーバーをローカルサーバーにする。 この機能は、キーボードの Alt + L キーを押して実行することもできます。
Settings	セッティング画面を表示する。
Copy	クリップのコピーを実行する。
Move	クリップの移動を実行する。
CAM / Clip	CAM：クリップのコピー／移動時に、選択中のカメラアングルのみを対象にする。 Clip：クリップのコピー／移動時に、すべてのカメラアングルを対象にする。
Sync Prv	PRV を PGM と同じタイムコード、同じ速度に同期させる。

第 2 メニュー

項目	内容
Push	プッシュ機能を実行する。
>Archive	クリップをアーカイブする。
Aux Clip	オーディオクリップを登録する。
PostRoll	OFF：OUT 点に達したあと、再生を停止する。 ON：OUT 点に達したあと、設定した時間再生を続けてから停止する。 • 設定時間はセッティング画面で設定します。
CAM / Clip	CAM：選択中のカメラアングルのみを設定対象にする。 Clip：すべてのカメラアングルを設定対象にする。
Sw to In	OFF：カメラアングル切り換え時、現在のタイムコード位置で切り換える。 ON：カメラアングル切り換え時、IN 点が設定されているときは、IN 点で切り換える。 IN 点が設定されていないときは、現在のタイムコード位置で切り換えます。
Effect	トランジションエフェクト（Cut、Mix または White Flash）を設定する。
Loop	ループ再生を有効または無効にする。
Metadata	メタデータ設定モードに切り換える。

クリップの選択

ページ番号、バンク番号、クリップ番号の順に指定して、クリップを選択します。

ページ番号の選択

[PAGE]ボタン（[SHIFT]→[PRV CTL]）→ファンクションボタン[F1]～[F10]（1～10 のページ番号に対応）

バンク番号の選択

[SHIFT]ボタン→ファンクションボタン[F1]～[F9]（1～9 のバンク番号に対応）

クリップ番号の選択

ファンクションボタン[F1]～[F10]（1～10 のクリップ番号に対応）
同じ[F1]～[F10]ボタンを複数回押して、カメラアングルを切り換えることができます。

キーボードでのクリップ操作

クリップの選択は、キーボードで操作することもできます。

ページの選択: Alt+左右キー
PageUp キーで次のページ、PageDown キーで前のページを選択できます。

バンクの選択: Alt+上下キー
Home キーで Bank 1、End キーで Bank PL を選択できます。

クリップの選択: Clip モードの場合は、上下キーで対象のクリップにカーソルを移動
CAM モードの場合は、上下左右キーで対象のクリップ／カメラアングルにカーソルを移動

また、キーボードでは以下の設定が可能です。

モードの選択: キーボード操作では、F2 キーで Clip モード／CAM モードを切り換えることができます。
Clip モードの場合はクリップのすべてのカメラアングルが操作や設定の対象となり、CAM モードの場合は選択したカメラアングルのみが対象となります。

マウス／タッチパネルでのクリップ操作

クリップの選択は、マウス／タッチパネルで操作することもできます。

ページの選択: クリップリストエリア上部のページボタンでページ番号をクリック／タップ

バンクの選択: クリップリストエリア右部のバンクボタンでバンク番号をクリック／タップ

クリップの選択: Clip モードの場合は、クリップリスト表示で対象のクリップをクリック／タップ
CAM モードの場合は、クリップリスト表示で対象のクリップのカメラアングルをクリック／タップ

モードの選択: 情報表示エリアの Clip モード／CAM モード切り換えボタンをクリック／タップ

コンテキストメニューの項目

クリップを右クリックすることで、そのクリップに対するオプション機能の一覧がメニュー表示されます。

このメニューは、キーボードの Shift+F10 を押して表示することもできます。

項目	内容
Copy to local	ネットワークサーバー上にある素材をローカルサーバー内にコピーする。 この機能はローカルサーバーのクリップリストに登録されているクリップに対してのみ有効です。 この機能は、クリップを選択してキーボードの Alt + C キーを押して実行することもできます。
Transcode	内部ファイル形式のファイルを XAVC format 形式に変換する。 この機能は BPU4800 上のクリップに対してのみ有効です。
Load XAVC	BPU4800 の XAVC ファイルをロードして再生する。

メタデータの登録

クリップに対し、メタデータとして、クリップ名、キーワード、レイティング、カラー、メモを登録することができます。登録されたメタデータのうち、キーワード、レイティング、カラーは、クリップの検索条件として使用することができます。

クリップに登録できるメタデータは、登録方法によって異なります。

- 操作画面での登録の場合：クリップ名、キーワード（登録／編集）、レイティング、カラー、メモ
- 操作パネルでの登録の場合：キーワード（登録のみ）、レイティング、カラー

操作画面でのメタデータ登録

メタデータ設定モードでメタデータの登録を行います。

- マウス／タッチパネル操作の場合、操作画面の［Metadata］をクリック／タップします。
- キーボード操作の場合、F8 キーを押します。

メタデータ設定モード画面

メタデータエリアの Name 欄で、クリップ名検索を行うことができます。検索の方法は、「クリップ名検索」（45 ページ）を参照してください。

クリップ名の登録

クリップ名は、Name 欄に任意の文字列を入力して登録することができます。また、メタデータ設定モードでは、文字列を登録したキーワードボタンをクリック／タップすることで、クリップ名を登録することができます。

キーワードボタンの文字列の設定については、「キーワードボタンの設定」（40 ページ）を参照してください。

キーボードによる任意文字列の登録

クリップに任意の名前（最大 32 文字）を付けることができます。

クリップを選択して Name 欄に名前を入力し、F1 キーを押して登録します。

- キーボードから文字を入力すると、Name 欄の最後に追加されます。

- Back Space キーで最後の 1 文字の削除、Esc キーで Name 欄のクリアができます。
- Shift+F1 キーを押すと、カーソルが Name 欄にあたり、Ctrl+左右キーでカーソル位置を変更できます。

メタデータ設定モード画面のキーワードボタンによる登録

マウス／タッチパネル操作での登録

1. クリップをクリック／タップして選択する。

2. Name 欄の左にあるチェックボックスをクリック／タップしてチェックを入れる。
キーワードボタンが Name 欄に対して有効になります。

3. 文字列が割り当てられているキーワードボタンをクリック／タップする。
Name 欄に文字列が入力されます。

4. ［Enter］をクリック／タップする。
クリップ名が登録されます。

- Name 欄の右にある［X］をクリック／タップすることで、Name 欄のクリアができます。
- カテゴリー1 のボタンごとに、カテゴリー2（25 個）、カテゴリー3（20 個）のキーワードボタンが表示されます。カテゴリー1 のボタンを選択することで、そのボタン専用のカテゴリー2、3 が表示されます。
- 選択状態にあるカテゴリー1 のボタンをクリック／タップすると、そのボタンの文字列が入力されます。
- 「Add space」のカテゴリー番号にチェックが入っている場合、該当カテゴリーのボタンが押されると、その後ろにスペースが自動的に追加されます。
- ［In TC］をクリック／タップすると、IN 点のタイムコードが Name 欄に登録されます。
- ［Original name］をクリック／タップすると、選択したクリップのクリップ名を Name 欄に呼び出します。

キーボード操作での登録

1. 上下左右キーでクリップを選択する。

2. Alt+N キーを押す。
Name 欄の左にあるチェックボックスにチェックが入ります。

3. Shift キーを押しながら上下左右キーを押してキーワードボタンを選択する。

4. Shift+Enter キーを押す。
Name 欄に文字列が入力されます。

5. F1 キーを押す。
クリップ名が登録されます。

キーワードの登録

キーワードには、キーワードボタンの文字列を 5 個まで登録できます。なお、キーボードによる任意の文字はできません。
キーワードボタンの文字列の設定については、「キーワードボタンの設定」（40 ページ）を参照してください。

マウス／タッチパネル操作での登録

1. 「KW」の左にあるチェックボックスをクリック／タップしてチェックを入れる。

2. キーワードボタンをクリック／タップする。
ボタンに割り当てられている文字列が、「1」～「5」の内の空いているテキストボックスに入力され、同時にクリップに登録されます。

キーボード操作での登録

1. Alt+K キーを押す。
   「KW」の左にあるチェックボックスにチェックが入ります。
2. Shift キーを押しながら上下左右キーを押してキーワードボタンを選択する。
3. Shift+Enter キーを押す。
   ボタンに割り当てられている文字列が、「1」～「5」の内の空いているテキストボックスに入力され、同時にクリップに登録されます。

- テキストボックスの右にある[X]をクリック／タップすることで、テキストボックスのクリアができます。
- カテゴリー1 のボタンごとに、カテゴリー2（25 個）、カテゴリー3（20 個）のキーワードボタンが表示されます。カテゴリー1 のボタンを選択することで、そのボタン専用のカテゴリー2、3 が表示されます。
- 選択状態にあるカテゴリー1 のボタンをクリック／タップすると、そのボタンの文字列が入力されます。

キーワードの一括削除

以下の操作で、すべてのテキストボックスを一括でクリアできます。

マウス／タッチパネル操作の場合、[All]をクリック／タップします。
キーボード操作の場合、テキストボックスが選択されている状態で Alt+Delete キーを押します。

メモの登録

メモには、キーワードボタンの文字列を登録できます。また、キーボードで任意の文字列を登録することもできます。
キーワードボタンの文字列の設定については、「キーワードボタンの設定」（40 ページ）を参照してください。

マウス／タッチパネル操作での登録

1. 「Memo」の左にあるチェックボックスをクリック／タップしてチェックを入れる。
2. キーワードボタンをクリック／タップする。
   ボタンに割り当てられている文字列が、テキストボックスに入力されます。
3. [Enter]をクリック／タップする。
   メモが登録されます。

キーボード操作での登録

1. Alt+M キーを押す。
   「Memo」の左にあるチェックボックスにチェックが入ります。
2. Shift キーを押しながら上下左右キーを押してキーワードボタンを選択する。
3. Shift+Enter キーを押す。
   ボタンに割り当てられている文字列が、テキストボックスに入力されます。
4. Enter キーを押す。
   メモが登録されます。

- テキストボックスの右にある[X]をクリック／タップすることで、テキストボックスのクリアができます。
- カテゴリー1 のボタンごとに、カテゴリー2（25 個）、カテゴリー3（20 個）のキーワードボタンが表示されます。カテゴリー1 のボタンを選択することで、そのボタン専用のカテゴリー2、3 が表示されます。

- 選択状態にあるカテゴリー1 のボタンをクリック／タップすると、そのボタンの文字列が入力されます。
- 「Add space」のカテゴリー番号にチェックが入っている場合、該当カテゴリーのボタンが押されると、その後ろにスペースが自動的に追加されます。

任意の文字列の登録

マウス／タッチパネル操作の場合、テキストボックスをクリック／タップして選択し、キーボードで文字を入力します。
キーボード操作の場合、テキストボックスを Tab キーで選択し、文字を入力します。
入力できる文字数は、最大 256 文字です。
テキストボックスにすでに文字列が登録されている場合、キーボードで入力した文字は文字列の最後に追加されます。
Back Space キーで最後の 1 文字の削除、Esc キーでテキストボックスのクリアができます。

レイティングの登録

マウス／タッチパネル操作の場合、設定したいレイティングのボタンをクリック／タップします。
キーボード操作の場合、登録したいレイティングのボタンを Tab キーで選択し、スペースキーを押します。

カラーの登録

マウス／タッチパネル操作の場合、登録したいカラーのボタンをクリック／タップします。解除する場合は、登録されているカラーをクリック／タップします。
キーボード操作の場合、登録したいカラーのボタンを Tab キーで選択し、スペースキーを押します。解除する場合は、登録されているカラーを選択し、スペースキーを押します。
カラーは複数登録できます。

キーワードボタンの設定

1. メタデータエリアの［Edit］をクリック／タップする。
各ボタンの文字列が変更可能になります。

2. 変更または新規入力するボタンを、クリック／タップして選択する。

3. キーボードで文字列を変更または新規入力する。
各ボタンに設定できる文字数は、最大 32 文字です。

4. ［Edit］をクリック／タップする。
変更が確定されます。

- ［Import］／［Export］で、キーワードボタンの設定を、一括してインポート／エクスポートできます。

操作パネルでのメタデータ登録

操作パネルからメタデータの登録を行います。

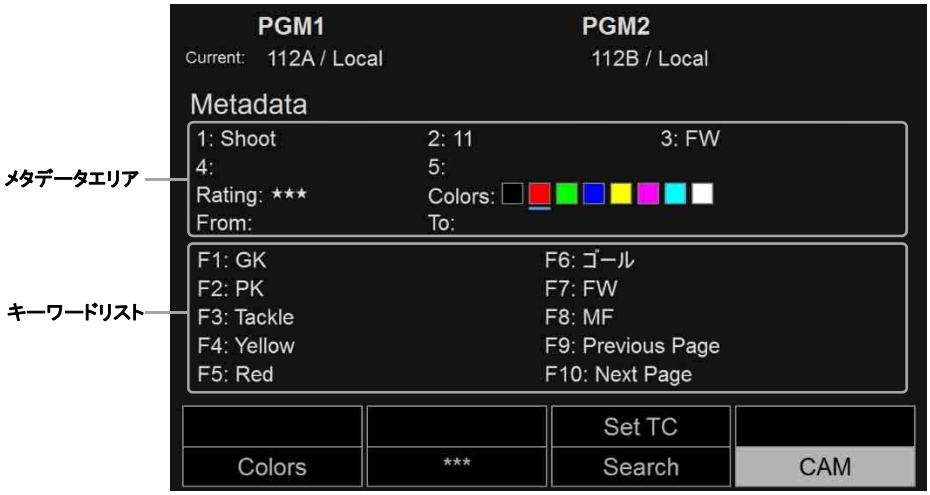
ご注意

- キーワードを登録するには、あらかじめ操作画面でキーワードボタンを設定しておく必要があります。キーワードボタンの設定については、「キーワードボタンの設定」（40 ページ）を参照してください。
- 操作パネルでのメタデータ登録では、メモの登録はできません。

クリップをロード→［MENU］ボタン→ソフトボタン［C］（Metadata）

- 操作パネルとメインディスプレイの連携がオンの場合は、操作画面上にサブモニターと同等のメタデータ設定画面がサブダイアログで表示されます。

メタデータ設定画面



キーワードの登録

ファンクションボタン［F1］～［F8］（キーワードリストの「F1」～「F8」に対応）

- ファンクションボタンを押すと、「1」～「5」の空いている部分にキーワードが登録されます。
- キーワードは、1 つのクリップに 5 個まで登録できます。
- キーワードリストには、メタデータ設定モード画面のキーワードボタンに登録されている文字列が表示されます。
- キーワードリストに 8 個以上のキーワードがある場合は、ファンクションボタン［F9］（前ページ）／［F10］（次ページ）を押してページを切り換えることができます。

個々のキーワードのクリア

［CLEAR］ボタン→ファンクションボタン［F1］～［F5］（メタデータエリアの「1」～「5」に対応）

全キーワードの一括クリア

［CLEAR］ボタン→ファンクションボタン［F10］

レイティングの登録

ソフトボタン[B](***)

- ソフトボタン[B](***)を繰り返し押すことで、「☆」、「★」、「★★」、「★★★」が切り替わります。

カラーの登録

ソフトボタン[A](Colors)→それぞれのカラーに該当するソフトボタン

- カラーは複数登録できます。
- 設定されているカラーに該当するソフトボタンを押すと、設定が解除されます。
- 途中で操作をキャンセルするには[MENU]ボタンを押します。

ソフトボタンメニューの項目

項目	内容
Colors	ソフトボタンをカラー登録用に切り換える。
***	レイティングを「☆」、「★」、「★★」、「★★★」の順に切り換える。
Search	検索条件設定画面を表示する。
Set TC	タイムコード設定画面を表示する。
CAM / Clip	CAM:選択中のカメラアングルのみを設定対象にする。 Clip:すべてのカメラアングルを設定対象にする。

クリップの検索

ローカルサーバーおよびネットワークサーバー上のクリップまたはレコードトレインを各種メタデータ、タイムコード、クリップ名により検索します。

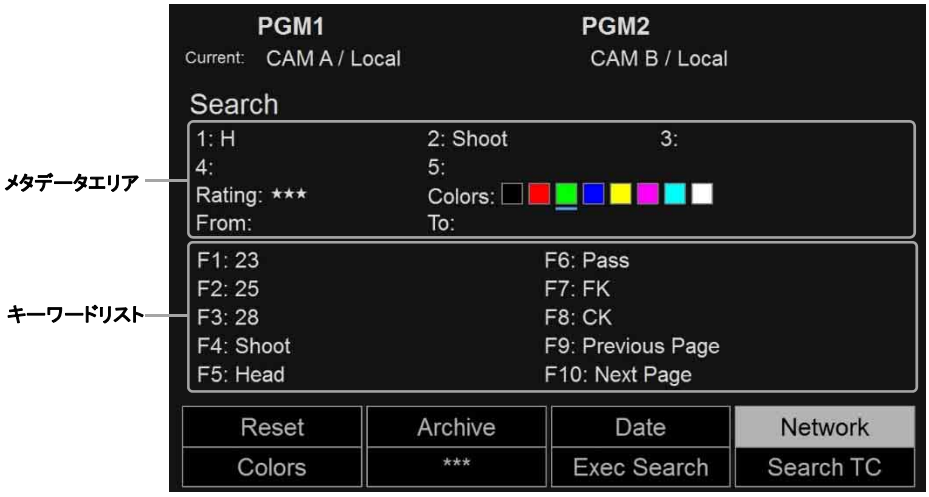
メタデータ検索

キーワード、レイティング、カラー、アーカイブ状態、日付で検索します。複数の条件を設定した場合、設定した条件のすべてを含むクリップが検索されます。

[MENU]ボタン→ソフトボタン[C](Metadata)→ソフトボタン[C](Search)→ ソフトボタンにより各種検索条件の設定→[ENTER]ボタンまたはソフトボタン[C](Exec Search)

- レコードトレインがロードされている場合は、[MENU]ボタン→ソフトボタン[C](Search)から各ソフトボタンを押します。
- 操作パネルとメインディスプレイの連携がオンの場合は、操作画面上にサブモニターと同等の検索条件設定画面がサブダイアログで表示されます。

検索条件設定画面



各検索条件の設定

キーワード、レイティング、カラーの設定

設定方法については、「操作パネルでのメタデータ登録」(41 ページ)を参照してください。

- レイティングは、設定したレイティング以上の値を持つクリップが検索対象となりなります。

アーカイブ状態の設定

[SHIFT]→ソフトボタン[B](Archive)

- [SHIFT]+ソフトボタン[B](Archive)を繰り返し押すことで、「Not Archived」、「Archiving」、「Archived」が切り替わります。

日付の設定

クリップの作成日を指定して検索します。

[SHIFT]→ソフトボタン[C](Date)→ソフトボタン[C](FromDate)または[D](ToDate)→ 「YY/MM/DD」(年月日)の数値を入力

- ファンクションボタン[F1]～[F10](1～0 の数字に対応)で日付を入力します。
- 途中で操作をキャンセルするには[MENU]ボタンを押します。
- [SHIFT]+ソフトボタン[A](Clear)を押すと、カーソルのある日付がクリアされます。

検索範囲の設定

[SHIFT]→ソフトボタン[D](Network)

- オン(ハイライト)にするとローカルおよびネットワークサーバー、オフにするとローカルサーバーのみを検索します。

タイムコード検索

Search ダイアログでタイムコードを指定して検索する方法と、ビューアーなどを操作中に[Browse]ボタンを押すだけで現在のタイムコード位置を検索する方法があります。

タイムコード指定による検索

指定したタイムコードが含まれるクリップまたはレコードトレインを検索します。

[MENU]ボタン→ソフトボタン[C](Metadata)→ソフトボタン[C](Search)→ ソフトボタン[D](Search TC)→ソフトボタン[B]で検索対象を選択→ タイムコード(時:分:秒:フレーム)を入力→[ENTER]ボタン

- レコードトレインがロードされている場合は、[MENU]ボタン→ソフトボタン[C](Search)からソフトボタン[D]を押します。
- ソフトボタン[B]を繰り返し押すことで、検索対象を切り換えます。「Clips」はクリップのみ、「Records」はレコードトレインのみ、「Clips + Records」はクリップとレコードトレインを検索します。
- [SHIFT]+ソフトボタン[C](Date)を押すと、日付設定画面が表示され、検索範囲に日付の範囲を指定することができます。指定方法は、「日付の設定」(44 ページ)を参照してください。
- ファンクションボタン[F1]～[F10](1～0 の数字に対応)でタイムコードを入力します。
- 途中で操作をキャンセルするには[MENU]ボタンを押します。

[BROWSE]ボタンによる検索

クリップやレコードトレインの操作中に[BROWSE]ボタンを押して、コントロール対象になっている PGM の現在のタイムコードで検索を実行することができます。

[BROWSE]ボタン

- 現在のタイムコードで検索を実行する場合は、セッティング画面の[Browse key]で[Search TC]を選択してください。なお、[Browse]ボタンを押して最後に行った検索を実行したい場合は、[Search result]を選択してください。

クリップ名検索

クリップ名で検索を実行します。キーボードで操作を行います。

1. 操作画面の情報表示エリアまたはメタデータ設定モード画面の Name 欄に、文字列を入力する。

2. Ctrl + F1 キーを押す。

Name 欄に入力した文字列をクリップ名に含んだクリップが、検索結果として表示されます。

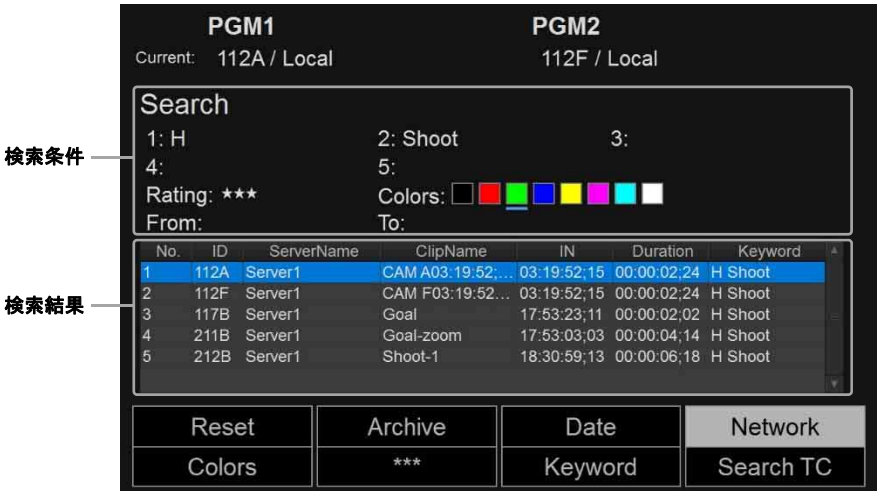
- 再検索を行うには、検索結果画面の Name 欄に文字列を入力し、Ctrl + F1 キーを押します。
- パネル操作で[SHIFT]+ソフトボタン[D](Network)を押すと、検索範囲を切り換えられます。オン(ハイライト)にするとローカルおよびネットワークサーバーを検索し、オフにするとローカルサーバーのみを検索します。

検索結果の確認

検索条件と一致するクリップまたはレコードトレインが、検索結果画面に一覧表示されます。

[BROWSE]ボタンが点灯し、検索結果画面がブラウズ操作状態となります。

メタデータ検索よる結果の例



- 検索結果一覧内のクリップまたはレコードトレインをジョグダイアログで選択すると、ビューアーにロードされます。
- [INSERT]ボタン([SHIFT]→[BROWSE])を押すと、検索されたすべてのクリップがアクティブなプレイリストのクリップの前後(セッティング画面の[Insert in playlist]で設定)に挿入されます。
- [MENU]ボタンを押すと、検索結果画面が閉じ、選んだクリップまたはレコードトレインがビューアー上でコントロール可能な状態になります。

ソフトボタンメニューの項目

項目	内容
Colors	ソフトボタンをカラー条件設定用に切り換える。
***	レイティングの条件設定を「☆」、「★」、「★★」、「★★★」の順に切り換える。
Exec Search	メタデータ検索を実行する。
Keyword	検索結果画面をキーワード設定用に切り換える。
Search TC	検索条件設定画面をタイムコード設定用に切り換える。
Reset	検索条件および検索結果をクリアする。
Archive	アーカイブ状態の条件設定を「Not Archived」、「Archiving」、「Archived」の順に切り換える。
Date	検索条件設定画面を日付設定用（From Date、To Date）に切り換える。
Network	検索範囲をローカルサーバーのみか、ローカルおよびネットワークサーバーかに切り換える。

プレイリスト管理

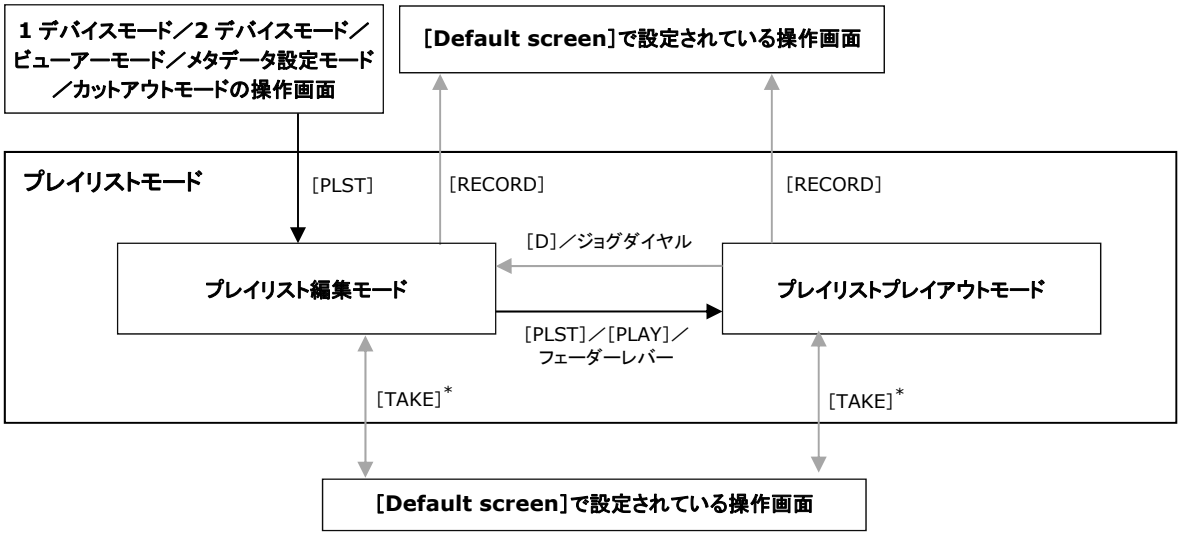
作成したクリップをプレイリストに登録し、ハイライト編集を行うことができます。
ネットワークサーバー上のクリップもプレイリストに登録できます。
プレイリストは、ページ番号、バンク番号 10（PL）、プレイリスト番号で管理されます。
サーバー上にはページが 10（1～10）あり、各ページのバンク 10（PL）がプレイリストの管理に使用されます。バンクごとに 10 のプレイリストを保存できます。

ご注意

サーバーで FS Format を実行したあとは、古いプレイリスト設定情報を削除する必要があります。セッティング画面で［Clear all playlist/cutout data］の［Clear］ボタンをクリック／タップしてください。

プレイリストモード

プレイリストモードには、編集用の「プレイリスト編集モード」と再生用の「プレイリストプレイアウトモード」があります。
プレイリストモードは［PLST］ボタンを押して切り換えます。F10 キーを押してプレイリストモードに切り換えることもできます。
プレイリストモードを終了するときは、［RECORD］ボタンを押します。プレイリストモードの終了後に表示される操作画面は、セッティング画面の［Default screen］で設定できます。



*: ［Multi playlist］が［Enable］に設定されていて、制御対象が［PGM1］のみまたは［PGM2］のみになっている場合に、ビューアーにプレイリストの画像が表示されているとき

マウス／タッチパネル操作の場合は、操作画面の［Playlist］をクリック／タップしてプレイリストモードに切り換えます。プレイリストモードを終了するときは、操作画面の［Viewer］、［1-Device］、［2-Device］、［Metadata］、または［Cutout］をクリック／タップします。

プレイリストモードの操作画面

ストーリーボード

(1) サーバー選択リストボックス

クリップおよびプレイリストが登録されているサーバーを選択します。

(2) クリップリスト／プレイリスト一覧

(3) ストーリーボード

ロード中のプレイリストがストーリーボード形式で表示されます。

選択中のクリップは背景が青で表示されます。

(4) ビューアー

- 2PGM モードの場合

  セッティング画面の[Multi playlist]が[Disable]のとき:

  PGM1 ビューアーにプレイリストの画像が表示されます。

  PGM2 ビューアーに素材のクリップの画像が表示されます。Preview Control モードでプレイリストプレイアウトモードにした場合、次に再生予定のクリップが表示されます。

  セッティング画面の[Multi playlist]が[Enable]のとき:

  コントロール対象の PGM にプレイリストの画像を表示します。

- 1PGM モードの場合

  PGM1 ビューアーにプレイリストの画像が表示されます。

(5) PGM 名

(6) プレイリスト ID

(7) プレイリスト名

プレイリストに名前を付けている場合に表示されます。

(8) プレイリスト内のクリップ数

(9) プレイリスト内のクリップの合計時間

(10) 非同期クリップ有りマーク

クリップとオーディオクリップが同期していない状態のクリップがプレイリスト内に存在する場合に表示されます。

(11) オーディオクリップ情報エリア

オーディオクリップがプレイリストに設定されている場合、オーディオクリップのクリップ ID、クリップ名、デュレーション、プレイリスト内のクリップの合計時間とオーディオクリップの時間との差分値が表示されます。

(12) プレイリスト用 Share Play インジケーター

プレイリスト上に1つでもネットワーククリップが存在する場合、プレイリスト全体が Share Play 可能かどうかを示します。

緑：Share Play 可能

グレー：Share Play 不可

(13) クリップ情報

クリップ ID、クリップ名、デュレーションが表示されます。

(14) サムネイル画像

(15) エフェクトマーク

クリップにエフェクトが設定されている場合に表示されます。

(16) プレイリスト編集操作ボタン

Overwrite チェックボックス：プレイリストの編集を挿入モードで行うか上書きモードで行うかを設定します。チェックを入れると、上書きモードになります。

Sort by TC：IN 点の順にプレイリスト中のクリップをソートします。

Delete：プレイリスト中の選択したクリップを削除します。

Delete All：プレイリスト中のすべてのクリップを削除します。

Copy to local(All)：プレイリスト中のすべてのネットワークサーバーのクリップを、ローカルサーバーにコピーします。

Copy to local(Dummy)：プレイリスト中の Share Play 不可状態のネットワーククリップを、ローカルサーバーにコピーします。

Melt：プレイリストを一本化して 1 つのクリップにします。

Small/Large：サムネイル画像の表示サイズを変更します。

(17) クリップ用 Share Play インジケーター

ネットワークサーバー上のクリップの場合、Share Play 可能かどうかを示します。

緑：Share Play 可能

グレー：Share Play 不可

(18) スワップマーク

クリップにスワップデータが設定されている場合に表示されます。

(19) オーディオクリップ同期インジケーター

クリップとオーディオクリップが同じクリップの場合、クリップが同期しているかどうかを示します。

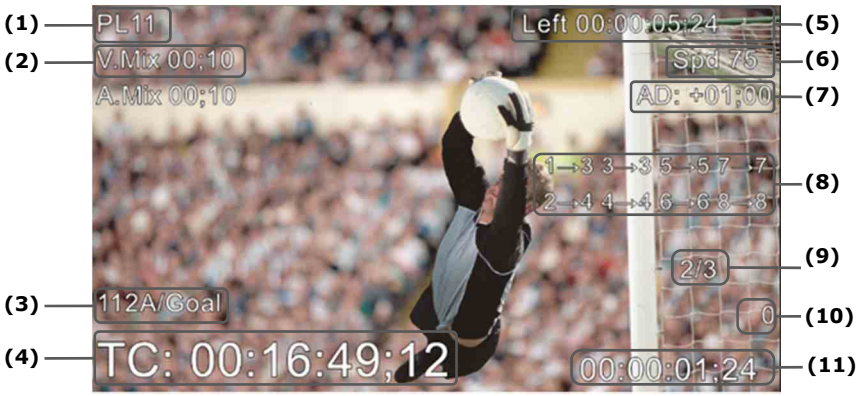
:同期状態

:非同期状態

(20) オーディオスプリット値

クリップに設定されているオーディオスプリット値が表示されます。クリップを越えてスプリット値が設定されている場合は、越えているクリップには[<<]または[>>]が表示されます。

プレイリストのビューアー



(1) ロード中のプレイリスト ID

(2) 現在のクリップに設定されたエフェクトの種類とデュレーション

(3) 現在のクリップ ID／クリップ名

(4) 現在のタイムコード

(5) プレイリスト再生の残り時間

(6) 現在の速度設定

(7) クリップに設定されているオーディオスプリット値

(8) 設定されているスワップデータ(現在位置がスワップポイントのときに表示)

(9) プレイリスト中の現在のクリップ位置／プレイリスト中のクリップの総数

(10) 速度状態

(11) 現在のクリップの OUT 点までのカウントダウン

プレイリスト編集モード

[PLST]ボタンを押すと、プレイリスト編集モードに切り換わります。

マウス／タッチパネル操作の場合は、操作画面の[Playlist]をクリック／タップして、プレイリスト編集モードに切り換えます。

プレイリスト編集モードの操作画面が表示され、選択中のプレイリストがロードされます。PGM1 に、プレイリスト中の選択されているクリップの IN 点が表示されます。2PGM モードの場合は、PGM2 に、プレイリストの先頭に登録されている素材のクリップの IN 点が表示されます。

プレイリスト編集モードでは、登録したクリップの移動や削除などの編集操作を行うことができます。

プレビューコントロール

2PGM モードでは、制御する PGM 出力を切り換えながら、素材のクリップ（プレビュー）とプレイリストの操作を行うことができます。
[PRV CTL]ボタンを押すとプレビューコントロールが有効になり、PGM2（クリップの操作）が制御対象になります。もう一度[PRV CTL]ボタンを押すと、制御対象が PGM1（プレイリストの操作）に戻ります。

ご注意

- 制御できる PGM 出力が 1 つのみの場合は、プレビューコントロールを使用できません。
- PWS-4500 を XAVC 4K/QFHD、Avid DNxHD および Apple ProRes 422 フォーマットで使用し、セッティング画面の[Effect by two ports]を[Enable]に設定している場合、プレイリストのカレント位置がエフェクト期間中のときは、PGM2 にはエフェクトの画が表示されます。この場合、[PRV CTL]ボタンを押しても制御対象のクリップは表示されません。

プレイリストプレイアウトモード

プレイリスト編集モードで[PLST]ボタンを押すと、プレイリストプレイアウトモードに切り換わります。[PLAY]ボタンを押すと、現在の位置から再生が開始されます。
プレイリストプレイアウトモードで、もう一度[PLST]ボタンを押すと、先頭のクリップの IN 点にキューアップされ、[PLAY]ボタンを押すと再生が開始されます。
プレイリスト編集モードに戻るときは、ジョグダイヤルを動作させるか、ソフトボタン[D]（Edit）を押します。

ご注意

- Preview Control モードのときは、次に再生予定のクリップを PRV 側に表示します。
- ネットワークサーバー上のクリップで再生できない状態のものがあった場合、その部分はサーバーの内蔵信号で再生されます。

プレイリストの選択

ページ番号、バンク番号 10（PL）、プレイリスト番号の順に指定して、プレイリストを選択（アクティブに）します。
デフォルトでは、「PL11」（ページ 1 のプレイリスト 1）がアクティブになっています。
操作パネルを 2 台使用しているとき、1 台目の操作パネル（Panel1）のデフォルトは「PL11」、2 台目の操作パネル（Panel2）のデフォルトは「PL21」になります。

ページ番号の選択

[PAGE]ボタン（[SHIFT]→[PRV CTL]）→ファンクションボタン[F1]～[F10]（1～10 のページ番号に対応）

バンク番号 10（PL）の選択

[SHIFT]ボタン→ファンクションボタン[F10]（バンク番号 10（PL）に対応）

プレイリスト番号の選択

ファンクションボタン[F1]～[F10]（1～10 のプレイリスト番号に対応）
プレイリストにクリップが登録されている場合は、プレイリストがアクティブになり、選択したファンクションボタン[F1]～[F10]が赤で点灯します。

プレイリストが空の場合は、確認メッセージで[ENTER]ボタンを押すとプレイリストがアクティブになり、選択したファンクションボタン[F1]～[F10]が赤で点灯します。

キーボードでのプレイリスト操作

プレイリストの選択は、キーボードで操作することもできます。

ページの選択: Alt ＋ 左右キー

バンク 10（PL）の選択: Alt ＋ 下キー

プレイリストの選択: 上下 ＋ Enter キー

また、キーボードでは以下の設定が可能です。

プレイリスト名の設定: プレイリストに任意の名前を付けることができます（32 文字まで）。プレイリストを選択して Name 欄に名前を入力し、F1 キーを押して確定します。
Shift ＋ F1 キーを押すと、カーソルが Name 欄に移動します。

マウス／タッチパネルでのプレイリスト操作

プレイリストの選択は、マウス／タッチパネルで操作することもできます。

ページの選択: クリップリストエリア上部のページボタンでページ番号をクリック／タップ

バンク 10（PL）の選択: クリップリストエリア右部のバンクボタンで「PL」をクリック／タップ

プレイリストの選択: プレイリスト一覧表示でプレイリストをダブルクリック／ダブルタップ

プレイリストの基本操作

プレイリストの作成

プレイリストを選択→登録するクリップをロード→[ENTER]ボタン

- 空のプレイリストの場合は、クリップが登録されてプレイリストが作成されます。クリップが登録されているプレイリストの場合は、最後にクリップが追加されます。
- マウス／タッチパネル操作の場合は、プレイリストを選択後、登録するクリップを選択してストーリーボードにドラッグ &ドロップします。

ご注意

登録できるクリップ数は、ローカルサーバーが PWS-4500 の場合は最大 300 個、BPU4800 の場合は最大 100 個です。

プレイリストの削除

ページ番号を選択→バンク番号を選択（[SHIFT]ボタン→ファンクションボタン[F10]）→[CLEAR]ボタン→プレイリスト番号を選択→確認メッセージで[ENTER]ボタン

- 削除を中止する場合は、確認メッセージで[MENU]ボタンを押します。
- プレイリストとプレイリスト内のクリップが削除されます。
- アクティブなプレイリストは削除できません。

- キーボード操作の場合は、プレイリストを選択して Ctrl + Delete キーを押し、確認メッセージで Enter キー（中止する場合は Esc キー）を押します。

プレイリストのコピー

コピーするプレイリストを選択→空のプレイリスト番号を選択→確認メッセージでソフトボタン[A]（Copy）→[ENTER]ボタン

- コピーを中止する場合は、確認メッセージで[MENU]ボタンを押します。
- キーボード操作の場合は、コピーするプレイリストを選択して Ctrl + C キーを押し、空のプレイリスト番号を選択して Ctrl + V キーを押します。
- マウス／タッチパネル操作の場合は、コピーするクリップを選択し、空のプレイリスト番号にドラッグ &ドロップします。

プレイリストのアーカイブ

Media Gateway と連携してプレイリストを保管します。

プレイリスト編集モード→[MENU]ボタン→ソフトボタン[A]（>Archive）

- プレイリストとプレイリスト内のすべてのクリップがアーカイブされます。
- プレイリストがアーカイブに指定されているときや、アーカイブ実行中は、プレイリスト ID の背景が緑になり、プレイリスト ID の下にプログレスバーが表示されます。
- キーボード操作の場合は、プレイリストを選択して Alt+Z キーを押します。

ご注意

- プレイリストのアーカイブを実行する前に、Media Gateway がインストールされている PC 側での共有フォルダーの設定、PWA-PRC1 がインストールされている PC 側での資格情報の設定を行う必要があります。設定方法については、インストレーションガイドを参照してください。
- プロフェッショナルディスク、SxS メモリーカード、Avid サーバーへのプレイリストのアーカイブはできません。

プレイリスト編集・再生の基本操作

プレイリスト内のクリップ選択（ブラウズ操作）

プレイリスト編集モード→[BROWSE]ボタン→ジョグダイヤルでブラウズ→目的のクリップを選択

- ブラウズ操作を終了する場合は、もう一度[BROWSE]ボタンを押します。
- マウス／タッチパネル操作の場合は、ストーリーボードで目的のクリップをクリック／タップして選択します。

プレイリストへのクリップの追加

Overwrite チェックボックスのチェックが外れているときは挿入モード、チェックが入っているときは上書きモード、でクリップが追加されます。ただし、上書きモードでの追加は、マウス／タッチパネルでのみ操作できます。

- 挿入モードの場合は、選択した挿入位置の前後（セッティング画面の[Insert in playlist]で設定）にクリップが挿入されます。

  上書きモードの場合は、追加するクリップの IN/OUT 点、デュレーションを固定した状態で、プレイリストのクリップの IN 点から上書きします。

- 上書きモード時は、プレイリスト内のクリップの移動はできません。
- 上書きモード時は、IN/OUT 点の変更はできません。
- 上書きモード時は、オーディオのスプリット編集はできません。
- 上書きモード時は、Sort by TC の操作はできません。
- ロード中のプレイリスト内のクリップにオーディオスプリットが設定されている場合は、Overwrite チェックボックスにチェックを入れることはできません。

プレイリスト編集モード→挿入位置のクリップを選択→[PRV CTL]ボタン→PGM2 に素材のクリップをロード→ソフトボタン[A](Insert)または[INSERT]ボタン([SHIFT]→[BROWSE])

- マウス／タッチパネル操作の場合は、クリップリストで素材のクリップを選択し、ストーリーボードの追加位置にドラッグ &ドロップします。
- 1PGM モードの場合は、マウス／タッチパネル操作でクリップを追加します。
- ネットワークサーバー上のクリップを追加することもできます。
  ネットワークサーバー上のクリップの指定方法については、Share Play 機能の章を参照してください。

ご注意

- プレイリストにネットワークサーバー上のクリップを追加すると、オーディオのスプリット編集は行えなくなります。ネットワーククリップを初めて登録するとき、すでに設定されているスプリット編集のデータは削除されます。
- PWS-4500 を、再生ポートを HD Multi-Output に設定し、Avid DNxHD および Apple ProRes 422 フォーマットで使用している場合、本アプリケーションでセッティング画面の[Effect by two ports]を[Enable]にすると、[PRV CTL]ボタンは動作しません。

プレイリスト内のクリップ削除

Overwrite チェックボックスのチェックが外れているときは挿入モード、チェックが入っているときは上書きモード、でクリップが削除されます。ただし、上書きモードでの削除は、マウス／タッチパネルでのみ操作できます。

プレイリスト編集モード→クリップを選択→ソフトボタン[D](Delete)

- マウス／タッチパネル操作の場合は、ストーリーボードでクリップを選択して[Delete]をクリック／タップするか、クリップをストーリーボードのエリア外にドラッグ &ドロップします。すべてのクリップを削除する場合は、[Delete All]をクリック／タップします。
- 挿入モードでクリップを削除すると、後のクリップが削除したクリップ分前にずれます。
- 上書きモードでクリップを削除すると、削除したクリップの右隣のクリップの IN 点が削除したクリップ分前にずれます。

プレイリスト内のクリップ移動

プレイリスト編集モード→移動するクリップを選択→ソフトボタン[D](Delete)→挿入位置のクリップを選択→ソフトボタン[A](Insert)または[INSERT]ボタン([SHIFT]→[BROWSE])

- 選択した挿入位置の前後(セッティング画面の[Insert in playlist]で設定)にクリップが移動します。
- マウス／タッチパネル操作の場合は、ストーリーボードでクリップを選択し、挿入位置にドラッグ &ドロップします。
- 1PGM モードの場合は、マウス／タッチパネル操作でクリップを移動します。

プレイリスト内のクリップの IN/OUT 点変更

プレイリスト編集モード→クリップを選択→IN/OUT 点を設定

ガードバンドを含むクリップの先頭／末尾に IN/OUT 点を設定する場合：

[CLEAR]ボタン→[IN]または[OUT]ボタン

クリップの任意の位置に IN/OUT 点を設定する場合：

設定したい位置で[IN]または[OUT]ボタン

- IN/OUT 点の変更は、選択中のプレイリスト内のクリップのみに反映されます。

プレイリスト内のクリップの分割

プレイリスト編集モード→分割するクリップを選択→ジョグ操作で分割位置に移動→[MENU]ボタン→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[D]（Add Cut）

- クリップの登録数がすでに最大登録数に達している場合は分割できません。
- 分割後のクリップの前後いずれかが 10 フレーム未満になるような場合は分割できません。
- エフェクトが設定されているクリップを分割した場合、エフェクトは分割位置より前のクリップに保持されます。
- エフェクトの途中では分割できません。
- スプリットが設定されている範囲内では分割できません。

プレイリスト内のクリップの別アングルへの置き換え

プレイリスト内のクリップを、同じタイムコードまたはクリップ番号の別アングルに置き換えます。

プレイリスト編集モード→クリップを選択→[MENU]ボタン→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[C]（Other Angle）

- ソフトボタン[A]を押して、検索対象を設定します。

  TC：同じタイムコードを含むクリップまたはレコードトレイン

  Clip number：同じクリップ番号を持つクリップ
- ソフトボタン[B]（Clip）を繰り返し押すことで、検索対象を切り換えます。「Clips」はクリップのみ、「Records」はレコードトレインのみ、「Clips + Records」はクリップとレコードトレインを検索します。
- [SHIFT]+ソフトボタン[D]（Network）を押すことで、検索範囲を切り換えられます。オン（ハイライト）にするとローカルおよびネットワークサーバーを検索し、オフにするとローカルサーバーのみを検索します。
- 同じタイムコードを含むレコードトレインを選択した場合、プレイリスト内のクリップの IN 点/OUT 点と同じ値でクリップを作成して置き換えます。置き換えるクリップは、セッティング画面の[Network/PL clip save page]で指定したページに作成します。

オーディオクリップの登録

アクティブなプレイリストにオーディオクリップを登録できます。

ビューアーモード／1 デバイスモード／2 デバイスモード／メタデータ設定モード／カットアウトモードでオーディオクリップをロード→[MENU]ボタン→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[B]（Aux Clip）

- 登録をクリアするには、[MENU]ボタン→[CLEAR]ボタン→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[B]（Aux Clip）でクリアするクリップを選択します。

- 2PGM モードのときにプレイリスト編集モードでアクティブなプレイリストにオーディオクリップを登録するには、[PRV CTL]ボタン→オーディオクリップをロード→[MENU]ボタン→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[B](Aux Clip)の操作を行います。登録をクリアするには、[PRV CTL]ボタンをオンにして、[MENU]ボタン→[CLEAR]ボタン→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[B](Aux Clip)でクリアするクリップを選択します。
- マウス／タッチパネル操作の場合は、プレイリスト編集モードでオーディオクリップを選択し、オーディオクリップエリアにドラッグ＆ドロップします。
  登録をクリアするには、オーディオクリップをオーディオクリップエリア外へドラッグ＆ドロップします。
- 1PGM モードの場合は、マウス／タッチパネル操作でオーディオクリップの登録およびクリアを行います。

ご注意

ローカルサーバーが BPU4800 のときは、この機能には対応しません。

プレイリストの再生

プレイリスト編集モードで現在の位置から再生するには、[PLAY]ボタンを押します。
プレイリスト内のクリップは、各クリップに設定された速度で再生されます。また、フェーダーレバーで再生速度をコントロールすることもできます。
HFR で記録されているクリップの再生速度は、リアルタイムの速度まで設定できます。

- キーボード操作の場合は、Alt + P キーを押して再生を開始します。
- 再生中にソフトボタン[B](Next)を押すと、現在再生中のクリップの再生を中止して、次のクリップを再生します。
- 再生中にソフトボタン[C](Skip)を押すと、現在再生中のクリップの再生が終わった後に、次に再生予定のクリップを飛ばして、その次のクリップを再生します。
- Next／Skip 実行時、次の再生クリップにエフェクトが設定されている場合は、エフェクト付きで切り替わります。
- プレイリストプレイアウトモードでの再生操作については、「プレイリストプレイアウトモード」(51 ページ)を参照してください。
- プレイリストに登録されているネットワークサーバー上のクリップが Share Play できない場合は、自動的に Internal signal(RAMP)に置き換えてジョグ操作を可能とします(Dummy clip)。この場合はプレイアウトモードには入れません。Dummy clip のまま再生したい場合は、セッティング画面の[Playback with dummy clip]を[Enable]に設定してください。

プレイリスト再生中のクリップ追加

プレイリストモードの操作画面でプレイリストを再生中に、クリップをストーリーボードにドラッグ＆ドロップすることで、再生中のプレイリストの最後にクリップを追加することができます。

2PGM モードの場合は、セッティング画面の[Multi playlist]を[Enable]にすることで、1 デバイスまたは 2 デバイス画面でプレイリストに使用していない PGM のクリップを、再生中のプレイリストの最後に追加することができます。

プレイリスト編集モード→プレイリスト再生中の PGM と別の PGM を選択→追加するクリップをロード→[ENTER]ボタン

プレイリストの挿入

プレイリストに別のプレイリストを挿入できます。

- キーボード操作の場合は、挿入するプレイリストを選択して Ctrl ＋ C キーを押し、挿入先のプレイリスト番号を選択して Ctrl ＋ V キーを押します。挿入先のプレイリストの最後に追加されます。
- マウス／タッチパネル操作の場合は、挿入先のプレイリストをロードし、挿入するプレイリストを選択して、ストーリーボードの挿入位置にドラッグ＆ドロップします。
- ネットワークサーバー上のプレイリストを指定することもできます。

検索結果のプレイリストへの挿入

検索結果に表示されたクリップを、[INSERT]ボタン（[SHIFT]→[BROWSE]）でプレイリストに挿入することができます。

オーディオのスプリット編集

映像とオーディオを独立して編集することで、クリップが切り換わるタイミングをずらすことができます（スプリット編集）。セッティング画面の[Advanced audio editing]が[Yes]に設定されているときに、この編集が可能です。

ご注意

ローカルサーバーが BPU4800 のときは、この機能には対応しません。

ビデオベースのスプリット編集

2 つのクリップの切り換わりにおいて、オーディオが切り換わるタイミングをずらすことができます。
スプリット値は、ガードバンドを含むクリップの先頭から末尾までの範囲で設定することができます。プレイリストの最初のクリップの IN 点から最後のクリップの OUT 点までの間で、クリップを越えて設定することができます。

数値で指定する方法

プレイリスト編集モード→編集するクリップを選択→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[A]（V Base）→
ソフトボタン[A]（A Advance）または[B]（A Delay）→スプリット値を入力→[ENTER]ボタン

- クリップのオーディオの開始位置を前にずらすときはソフトボタン[A]を押します。逆に後ろにずらすときはソフトボタン[B]を押します。
- ファンクションボタン[F1]～[F10]（1～0 の数字に対応）またはキーボードで、スプリット値を入力します。
- [SHIFT]＋ソフトボタン[D]（Edit All）を押して反転表示すると、プレイリストのすべてのクリップに対して同じスプリット値が適用されます。
- スプリット値入力のダイアログ表示中は、ソフトボタン[A]（Previous）を押すとクリップの IN 点（前のクリップとの境界）、ソフトボタン[B]（Next）を押すとクリップの OUT 点（後ろのクリップとの境界）をスプリット位置に設定することができます。

切り換わるタイミングをマークして指定する方法

数値を入力する代わりに、次の操作でスプリットする位置をマークすることもできます。

プレイリスト編集モード→編集するクリップを選択→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[A]（V Base）→
ソフトボタン[D]（A Split）→ジョグ操作でスプリット位置に移動→[IN]または[OUT]ボタン

- [IN]ボタンを押すと、選択されているクリップのオーディオの開始位置が、ジョグで指定したスプリット位置に移動します。
- [OUT]ボタンを押すと、選択されているクリップの次のクリップのオーディオの開始位置が、ジョグで指定したスプリット位置に移動します。

オーディオベースのスプリット編集

2 つのクリップの切り換わりにおいて、ビデオが切り換わるタイミングをずらすことができます。
スプリット値は、ガードバンドを含むクリップの先頭から末尾までの範囲で設定することができます。ただし、設定できる位置は、前に隣接するクリップの IN 点＋10 フレームの位置から、後に隣接するのクリップの OUT 点－10 フレームの位置までの間となります。

数値で指定する方法

プレイリスト編集モード→編集するクリップを選択→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[B]（A Base）→
ソフトボタン[A]（V Advance）または[B]（V Delay）→スプリット値を入力→[ENTER]ボタン

- クリップの映像の開始位置を前にずらすときはソフトボタン[A]を押します。逆に後ろにずらすときはソフトボタン[B]を押します。
- ファンクションボタン[F1]～[F10]（1～0 の数字に対応）またはキーボードで、スプリット値を入力します。
- [SHIFT]＋ソフトボタン[D]（Edit All）を押して反転表示すると、プレイリストのすべてのクリップに対して同じスプリット値が適用されます。

切り換わるタイミングをマークして指定する方法

数値を入力する代わりに、次の操作でスプリットする位置をマークすることもできます。

プレイリスト編集モード→編集するクリップを選択→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[A]（A Base）→
ソフトボタン[D]（V Split）→ジョグ操作でスプリット位置に移動→[IN]または[OUT]ボタン

- [IN]ボタンを押すと、選択されているクリップの映像の開始位置が、ジョグで指定したスプリット位置に移動します。
- [OUT]ボタンを押すと、選択されているクリップの次のクリップの映像の開始位置が、ジョグで指定したスプリット位置に移動します。

オーディオチャンネルの入れ換え

クリップのオーディオチャンネルを入れ換えることができます。
オーディオチャンネルの入れ換えの操作は、セッティング画面の[Swap audio track]の設定（自動または手動）によって異なります。

ご注意

ローカルサーバーが BPU4800 のときは、この機能には対応しません。

オーディオチャンネルの自動入れ換え

プレイリスト編集モード→編集するクリップを選択→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[A]（V Base）→
[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[C]（Swap）→ジョグ操作でオーディオチャンネルの入れ換え開始位置に移動
→[IN]ボタン→ジョグ操作でオーディオチャンネルを元に戻す位置に移動→[OUT]ボタン

- [IN]または[OUT]ボタンで指定したオーディオチャンネルの入れ換え位置のことをスワップポイントと呼びます。スワップポイントは、選択されているクリップに対して複数指定可能です。

- オーディオチャンネルの自動設定時は、次のようにオーディオチャンネルが入れ替わります。
  トラック 1：チャンネル 1 → チャンネル 3、トラック 2：チャンネル 2 → チャンネル 4
  トラック 5～8 の入れ換えは行われません。
- オーディオチャンネルの入れ換え時にエフェクトを適用できます。この場合の操作は、オーディオベースのスプリット編集におけるエフェクト設定と同じです。

オーディオチャンネルの手動入れ換え

プレイリスト編集モード→編集するクリップを選択→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[A]（V Base）→
[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[C]（Swap）→ジョグ操作でオーディオトラックの入れ換え開始位置に移動→
[IN]ボタン→ファンクションボタンでトラック選択→ファンクションボタンでトラック番号を指定→
同様にしてすべてのトラックを指定→[ENTER]ボタン→ジョグ操作でオーディオトラックを元に戻す位置に移動
→[OUT]ボタン→ファンクションボタンでトラック選択→ファンクションボタンでトラック番号を指定→
同様にしてすべてのトラックを指定→[ENTER]ボタン

- トラック 1～8 のすべてに対して、任意のオーディオチャンネルを指定できます。
- トラックを選択するときに、ファンクションボタン[F10]を押すと消音設定にできます。
- 途中で操作をキャンセルするには[MENU]ボタンを押します。

スワップポイントの操作

プレイリスト編集モード→編集するクリップを選択→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[A]（V Base）→
[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[C]（Swap）→[GOTO IN]または[GOTO OUT]でスワップポイントにジャンプ
→[CLEAR]＋[IN]または[OUT]ボタンでスワップポイントを削除

- 次のボタンを押してスワップポイントにジャンプできます。
  [GOTO IN]ボタン：クリップの現在位置の手前にあるスワップポイントにジャンプ
  [GOTO OUT]ボタン：クリップの現在位置の後ろにあるスワップポイントにジャンプ
- [CLEAR]＋[IN]または[OUT]ボタンでスワップポイントを削除できます。クリップの現在位置によって次のように操作が異なります。
  現在位置がスワップポイント上にあるとき：現在位置のスワップポイントを削除
  現在位置がスワップポイント以外の位置にあるとき：クリップ上のすべてのスワップポイントを削除するかどうかを確認するメッセージが表示。[ENTER]ボタンを押してすべてのスワップポイントを削除

プレイリストの一本化

プレイリストの結果を 1 つのクリップとして作成することができます。作成したクリップは、セッティング画面の[Network/PL clip save page]で指定したページに保存されます。

プレイリスト編集モード→[MENU]ボタン→[SHIFT]ボタン→ソフトボタン[A]（Melt）→[ENTER]ボタン

- 途中で操作をキャンセルするには[MENU]ボタンを押します。
- キーボードで次の内容を変更することができます。なお、操作パネルの操作で一本化する場合、表示される[Melt]ダイアログの設定値は変更できません。
  REC port：一本化する際に記録するポートを選択します。

Clip name：クリップ名を設定します

Clip ID：セッティング画面の[Network/PL clip save page]の設定に従って決定されます（変更はできません）。

In TC：クリップの In TC を設定します。セッティング画面の[Melt default In TC]で設定した値が表示されます。

ご注意

プレイリストの一本化を実行中は、選択したポートでのそれまでの記録を停止します。一本化終了後に記録は再開されます。

ソフトボタンメニューの項目

プレイリストの選択操作時の項目

第 1 メニュー

項目	内容
Copy Playlist	プレイリストのコピーを実行する。
New Playlist	新規のプレイリストをアクティブにする。

プレイリスト編集モードでの項目

第 1 メニュー

項目	内容
Insert	クリップを挿入する。
Speed	選択したクリップの再生速度を設定する。 • ソフトボタン[B]（Speed）を押し、フェーダーレバーで速度を選択します。もう一度ソフトボタン[B]を押すか、[PLST]または[ENTER]ボタンを押すと設定が確定します。 • 再生速度を設定できる範囲は、ローカルサーバーが PWS-4500 の場合、セッティング画面の[Max speed]で 0%～100%または 0%～400%のいずれかを選択できます。BPU4800 の場合、[Max speed]の設定にかかわらず、0%～100%の範囲でのみ設定可能です。
Fx Dur	選択したクリップにトランジションエフェクトのデュレーション（0:00～3:00（秒：フレーム））を設定する。 • ソフトボタン[C]（Fx Dur）を押し、フェーダーレバーでデュレーションを選択します。もう一度ソフトボタン[C]を押すか、[PLST]または[ENTER]ボタンを押すと設定が確定します。
Delete	クリップを削除する。
V Base	ビデオベースのスプリット編集モードに移行する。
A Base	オーディオベースのスプリット編集モードに移行する。

項目	内容
Effect	選択したクリップにトランジションエフェクト（Cut、Mix または White Flash）を設定する。 • ［SHIFT］ボタン→ソフトボタン［C］（Effect）を押し、フェーダーレバーでエフェクトを選択します。もう一度［SHIFT］ボタン→ソフトボタン［C］を押すか、［PLST］または［ENTER］ボタンを押すと設定が確定します。 **ご注意** ローカルサーバーが BPU4800 のときは、この機能には対応しません。
Edit All	プレイリスト内のすべてのクリップを設定対象にする。
A Advance	ビデオベースのスプリット編集時に、クリップのオーディオの開始位置を前にずらすスプリット値を指定する。
A Delay	ビデオベースのスプリット編集時に、クリップのオーディオの開始位置を後ろにずらすスプリット値を指定する。
A Fx Dur	ビデオベースのスプリット編集時に、オーディオのエフェクトのデュレーションを指定する。 • ソフトボタン［C］（A Fx Dur）を押し、フェーダーレバーでデュレーションを指定します。もう一度ソフトボタン［C］を押すか、［PLST］または［ENTER］ボタンを押すと設定が確定します。
A Split	ビデオベースのスプリット編集時に、スプリット位置をマークして指定する。
Swap	オーディオチャンネル入れ換え（スワップ）モードに移行する。
V Advance	オーディオベースのスプリット編集時に、クリップのオーディオの開始位置を前にずらすスプリット値を指定する。
V Delay	オーディオベースのスプリット編集時に、クリップのオーディオの開始位置を後ろにずらすスプリット値を指定する。
V Fx Dur	オーディオベースのスプリット編集時に、ビデオのエフェクトのデュレーションを指定する。 • ソフトボタン［C］（V Fx Dur）を押し、フェーダーレバーでデュレーションを指定します。もう一度ソフトボタン［C］を押すか、［PLST］または［ENTER］ボタンを押すと設定が確定します。
V Split	オーディオベースのスプリット編集時に、スプリット位置をマークして指定する。
V Effect	ビデオベースのスプリット編集時に、適用するエフェクト（Cut、Mix または White Flash）の種類を指定する。

第 2 メニュー

項目	内容
>Archive	プレイリストをアーカイブする。
Melt	プレイリストの結果をクリップとして保存する。
Other Angle	プレイリスト内のクリップを、同じタイムコードまたはクリップ番号の別アングルに置き換える。
Add Cut	クリップを分割する。
Slow	プレイリスト上の HFR クリップに、最適なスロー速度を設定する。

プレイリストプレイアウトモードでの項目

第 1 メニュー

項目	内容
Next	次のクリップを再生する。
Skip	次のクリップをスキップして、その次のクリップを再生する。
Edit	プレイリスト編集モードに切り換える。

第 2 メニュー

項目	内容
Loop	ループ再生を有効または無効にする。

カットアウト編集機能

4K 撮影された素材から HD 画像を切り出して利用できます。
切り出し位置や範囲を指定してカットアウトデータをクリップに登録すると、切り出した範囲が HD 画像として再生されます。
カットアウトデータ付きのクリップは、アーカイブやプレイリストに登録できます。

ご注意

- サーバーの出力ポートが HD Cut Out モードに設定されている場合のみ操作可能です。設定方法については、PWS-4500 または BPU4800 のオペレーションマニュアルを参照してください。また、サーバーとの接続方法については、ソニーの営業担当者またはサービス担当者にお問い合わせください。
- カットアウト編集の操作には、マウス／タッチパネルが必要です。
- サーバーで FS Format を実行したあとは、古いカットアウトデータを削除する必要があります。セッティング画面で[Clear all playlist/cutout data]を実行してください。

カットアウトモード

カットアウトモードでは、主にマウス／タッチパネルを使用して操作します。
操作画面で[Cutout]をクリック／タップすると、カットアウトモードに切り換わり、カットアウトモードの操作画面が表示されます。
カットアウトモードを終了するときは、操作画面の[Viewer]、[1-Device]、[2-Device]、[Metadata]、または[Playlist]をクリック／タップします。

カットアウトモードの操作画面

(1) カットアウトフレーム設定エリア
切り出し範囲を指定するフレーム付きの素材画像が表示されます。

(2) スムーズ設定スライダー

Live Zoom および Still Zoom の動きを設定します。

左端にすると、ズームの初めから終わりまでリニアに動きます。

右側に動かすと、最初と終わりの動きを遅くしてスムーズにズームします。カーブのイメージが右に表示されます。

(3) Transition time 設定

Time：Live zoom では、設定したい Zoom 時間、Move 時間のボタンをクリック／タップします。

各ボタンの Transition time 値は、[Edit]ボタンを押し、該当ボタンをクリックすることで設定できます。

(4) ズーム設定

Zoom Limit：ズーム倍率の上限値を指定します（100%～600%）。

Zoom：設定したいズーム倍率のボタンをクリック／タップします。各ボタンのズーム値は、[Edit]ボタンを押し、該当ボタンをクリックすることで設定できます。

(5) Show control points チェックボックス

チェックマークを付けて有効にすると、カットアウトデータの軌跡がカットアウトフレーム設定エリアに表示されます。

(6) カットアウト編集操作ボタン

Copy Prev：現在の位置に直前のカットアウトデータを設定します。

Delete：選択したカットアウトデータを削除します。

Delete All：すべてのカットアウトデータを削除します。

(7) キーフレームテーブル

キーフレームとしてクリップに登録されたカットアウトデータが一覧表示されます。

カットアウトデータのタイムコード、中心点の XY 座標、ズーム倍率を確認できます。

指定したキーフレーム位置でのズームインアウト設定（Still Zoom）も可能です。

カットアウトデータをクリック/タップ、または[BROWSE]ボタンを押してからジョグによる操作で、カットアウトデータを選択してキューアップできます。

(8) カットアウト結果表示エリア

切り出した結果の画像が表示されます。

(9) ライブズーム設定ボタン

Live zoom: ライブズーム操作に切り換え

Touch zoom: タッチ操作時にズームイン開始

Auto still: ズームイン開始時に自動的に再生停止

Auto play: ズームアウト終了後に自動的に再生開始

カットアウトの基本操作

カットアウトデータの作成

1. クリップ／レコードトレインをロードする。

2. 操作画面で[Cutout]をクリック／タップする。

カットアウトモードに切り換わり、カットアウトモードの操作画面が表示されます。

3. クリップを再生する。

4. カットアウトフレーム設定エリアで、切り出し範囲の中心となる点をクリック／タップする。
5. マウスのホイールまたはタッチパネルでのピンチイン／ピンチアウトでフレームのサイズを調整し、切り出し範囲を指定する。
   カットアウト結果表示エリアで、切り出した結果を確認しながら指定できます。
6. 手順 4 と 5 を繰り返し、必要なカットアウトデータを設定する。
   カットアウトデータをもとに作成された補間データも含めて、設定したすべてのカットアウトデータがクリップに登録されます。
   カットアウトモードを終了するときは、操作画面の[Viewer]、[1-Device]、[2-Device]、[Metadata]、または[Playlist]をクリック／タップします。

カットアウトデータの編集

キーフレームテーブルで変更するカットアウトデータをクリック／タップして選択し、カットアウトフレーム設定エリアで切り出し範囲の中心点やフレームサイズを変更します。

カットアウトデータの削除

キーフレームテーブルで削除するカットアウトデータをクリック／タップして選択し、[Delete]をクリック／タップします。すべてのカットアウトデータを削除する場合は、[Delete All]をクリック／タップします。

カットアウトデータの再生

[PLAY]ボタンまたはキーボードの Alt + P キーを押します。
設定したカットアウトデータをもとに、データ間を補間しながらクリップが再生されます。

カットアウトデータからのクリップ作成

クリップ作成時にカットアウトデータの設定がある場合は、カットアウトデータ付きクリップとして登録されます。
カットアウトデータが設定されている場合、IN/OUT 点が設定されていなくても最初のキーフレーム、最後のキーフレーム位置を IN/OUT 点としてクリップが登録されます。

カットアウトデータ付きクリップのアーカイブ

クリップにカットアウトデータが設定されている場合、カットアウトデータも一緒にアーカイブされます。
アーカイブ操作については「クリップのアーカイブ」（31 ページ）を参照してください。

カットアウトデータ付きクリップのプレイリスト登録

カットアウトデータを設定したクリップをプレイリストに登録できます。
プレイリストの登録については「プレイリストの基本操作」（52 ページ）を参照してください。

ご注意

カットアウトデータ付きクリップのアーカイブおよびプレイリスト登録は、サーバーが HD CutOut モードまたは High Frame Rate with 2 Boards + HD Cut Out モードに設定されている場合のみ可能です。

指定ポイントでのズーム設定

1. セッティング画面で[Freeze on cue points]を[Yes]に設定する。

2. ズームしたいフレームを表示する。

3. ズームもとのズームサイズを設定する。

4. キーフレームリストの Still 設定にチェックを入れる。

5. ズーム先のズームサイズを設定する。

6. ズームを元に戻したい場合はズーム先の Still 設定欄の ボタンをクリックして に変える。

7. Zoom transition の値を設定する。

8. 再生開始位置へ頭出しする

9. 再生する

指定ポイントで再生が停止します。

10. [TAKE]ボタンを押す。

Zoom transition で設定した時間でズーム元からズーム先にズームされます。

11. Still 設定の方向が に設定されている場合は、[TAKE]ボタンを押す。

Zoom transition で設定した時間でズーム先からズーム元にズームされます。

12. [PLAY]ボタンまたはフェーダーレバーを操作し、再生を再開する。

ご注意

Still Zoom はクリップに対してのみ設定可能です。

再生中のズーム、ムーブ操作

キーフレームを設定せずに、再生中にズーム、ムーブ操作を行うことが可能です。

1. [Live zoom]設定にチェックを入れる。

2. Auto still、Auto play、Touch zoom、Time、Zoom を設定する。

3. ズームしたい位置をクリック／タップする。

クリック／タップした位置をズームポイントとして記憶します。

Touch zoom を On に設定している場合は、ズームインも同時に行われます。

4. 再生を開始し、ズームしたいところで[TAKE]ボタンを押す。

ズームポイントに向かってズームインします。

5. ムーブしたい位置をクリック／タップする。

クリック／タップした位置に向かってムーブします。

6. [TAKE]ボタンを再度押す。

全画面（100%）までズームアウトします。

Share Play 機能

ネットワーク上のサーバーにあるレコードトレインやクリップを参照し、ローカルサーバーにあるレコードトレインやクリップと同様の操作で再生制御などを行うことができます（Share Play 機能）。

準備

ネットワーク上のサーバー情報は、あらかじめセッティング画面の［4K server (s)］で設定しておく必要があります。詳細は「設定」（70 ページ）を参照してください。

ネットワークサーバーの選択

Share Play 機能を使うときは、参照先のネットワークサーバーを選択します。サーバーの選択は、レコードトレイン用、クリップ用のそれぞれに対して設定できます。

［NETWORK］ボタン→ソフトボタン［B］～［D］→
ファンクションボタン［F1］～［F10］でネットワーク上のサーバーを選択

- ［NETWORK］ボタンを押し、ネットワークサーバーの用途に応じて［B］～［D］のいずれかを押します。
  ソフトボタン［B］（Clips）：クリップのコントロール対象をネットワークサーバーにする
  ソフトボタン［C］（Records）：レコードトレインのコントロール対象をネットワークサーバーにする
  ソフトボタン［D］（Clips + Records）：クリップとレコードトレインの両方のコントロール対象をネットワークサーバーにする
- ローカルサーバーを選択するときは、ソフトボタン［A］（Local）を押します。

キーボードでのネットワークサーバー選択操作

ネットワークサーバーの選択は、キーボードで操作することもできます。

操作	使用するキー
サーバー一覧の表示	Shift + F9 キー
ローカルサーバーの参照に戻る	Alt + L キー
クリップのコントロール対象をネットワークサーバーにする	Alt + C キー
レコードトレインのコントロール対象をネットワークサーバーにする	Alt + R キー
クリップとレコードトレイン両方のコントロール対象をネットワークサーバーにする	Alt + P キー
サーバー一覧でネットワークサーバーを選択	上下左右キー
ネットワークサーバーの選択を確定	Enter キー
この操作をキャンセル	Esc キー

マウス／タッチパネルでのネットワークサーバー選択操作

ネットワークサーバーの選択は、マウス／タッチパネルで操作することもできます。

- クリップのコントロール対象をネットワークサーバーにするには、1 デバイスモード、2 デバイスモード、またはメタデータ設定モードの操作画面上のドロップダウンリストでサーバーを選択します。
- レコードトレインのコントロール対象をネットワークサーバーにするには、1 デバイスモード、2 デバイスモード、またはメタデータ設定モードの操作画面のビューワーエリアのドロップダウンリストでサーバーを選択します。

ネットワークサーバーのレコードトレインのロード

レコードトレインとしてネットワークサーバーを選択した後で、下記の操作を行うことでネットワークサーバーのレコードトレインをロードできます。

記録中のレコードトレインのロード

サーバーの選択を切り替えた後は、記録中のレコードトレインが操作対象になります。ネットワークサーバーのレコードトレインを、次の操作で再生できます。

- [RECORD]ボタンを押すと、ライブモードに切り替わり、その時点でアクティブになっているレコードトレインのライブモードに切り替わります。

次のようにマウス／タッチパネルでも操作できます。

- [Live]ボタンをクリック／タップと、記録中のレコードトレインが操作対象となり、ライブモードに切り替わります。
- セッティング画面の[Chase delay]を設定することで、ライブモードの画像を遅延再生させることができます。

記録済みのレコードトレインのロード

[File]ボタンをクリック/タップすることで、ローカルサーバーのレコードトレインと同じ操作でロードできます。詳細は「サーバーに記録済みのレコードトレインにアクセスするには」（23 ページ）を参照してください。

ネットワークサーバーでのクリップの作成

レコードトレインとクリップの両方のコントロール対象を同じネットワークサーバーにした場合、またはクリップのコントロール対象をローカルサーバーにした場合に、ネットワークサーバーのレコードトレインからクリップを作成し、同じネットワークサーバーに保存できます。クリップのコントロール対象をローカルにした場合は、レコードトレインと同じネットワークサーバー上にクリップの実体が作成され、ローカルのクリップリストには実体へのリンククリップとして表示されます。

作成の手順は、ローカルサーバーでの操作と同じです。詳細は「クリップの作成・保存」（29 ページ）を参照してください。

ネットワークサーバーのクリップのロード

クリップのコントロール対象をネットワークサーバーにした場合は、そのサーバーのクリップがファンクションボタン[F1]～[F10]に割り当てられます。ビューアーにロードする手順は、ローカルサーバーでの操作と同じです。詳細は「クリップのロード」（29 ページ）を参照してください。

ネットワークサーバー上のカメラのマッピング

ローカルサーバーで未使用のカメラアングルにネットワーク上のレコードトレインをマッピングすることで、ローカルのレコードトレインと同様の操作が可能になります。マッピングされたレコードトレインからクリップを作成した場合には、クリップの実体はネットワーク上に保存され、ローカルのクリップリストには実体へのリンククリップとして作成されます。

マッピングの設定については、「設定」の「Mapping network cam」（80 ページ）を参照してください。

ネットワークサーバーのカットアウトデータの操作

ネットワークサーバーのクリップ／レコードトレインからカットアウトデータを作成および編集することはできません。ただし、ネットワークサーバーにカットアウトデータが登録されているときは、ローカルサーバーのカットアウトデータと同様に、そのカットアウトデータを再生できます。また、ネットワークサーバーのクリップまたはレコードトレインに対してライブズーム操作が可能です。詳細は「カットアウト編集機能」（63 ページ）を参照してください。

設定

セッティング画面

セッティング画面では、PWA-PRC1 や PWSK-4403 の設定、サーバーの設定、レコードトレインの管理と制御などを行います。

セッティング画面を表示する

1 デバイスモード、2 デバイスモード、ビューアーモード、またはメタデータ設定モードのときに、操作パネルの[SHIFT]ボタンを押してからソフトボタン[D](Settings)を押します。
キーボード操作では、Shift + F2 キーを押します。
マウス／タッチパネル操作では、操作画面の[Settings]ボタンをクリック／タップします。
プレイリストが PGM にロードされているときは、セッティング画面を表示することはできません。
各項目については、「設定項目」(71 ページ)を参照してください。

操作画面に戻る

[SHIFT]ボタンを押してからソフトボタン[D](Exit Settings)を押します。
キーボード操作では、Shift + F2 キーを押します。
マウス／タッチパネル操作では、操作画面の[Viewer]、[1-Device]、[2-Device]、または[Metadata]をクリック／タップします。

PWA-PRC1 を終了する

[SHIFT]ボタンを押してからソフトボタン[A](Exit App)を押すと、確認メッセージが表示されます。
レコードトレインの記録を終了して全ポートをクローズする場合は[OK]ボタン、記録を継続する場合は[Cancel]ボタンをクリック／タップします。
マウス／タッチパネル操作でアプリケーションウィンドウ右上の「 ☒ 」ボタンをクリック／タップして、PWA-PRC1 を終了することもできます。

ご注意

- ローカルサーバーを変更した場合、または PRC Manager の IP アドレスを変更した場合は、PWA-PRC1 を再起動してください。
- 2 台の PWSK-4403 を使用している場合、メインディスプレイとの連携設定がオンの操作パネルからのみセッティング画面で設定操作を行うことができます。セッティング画面の表示中は、メインディスプレイとの連携設定がオフの操作パネルでのキー操作は無効になります。

設定項目

[Local 1]

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
Operation	Clear all clips	サーバー上のクリップ、プレイリスト、プレイリスト設定情報、カットアウトデータをすべて削除する。 パネルからの操作：ソフトボタン[A]（Clear all clips）で実行 **ご注意** プロテクトが設定されているページまたはバンクのクリップは削除されません。	—
	Clear all playlist/ cutout data	サーバー上のプレイリスト設定情報とカットアウトデータのみを削除する。	—
	Record (Start/Stop)	レコードトレインの記録を開始（Start）または停止（Stop）する。 パネルからの操作：ソフトボタン[B]（Start または Stop）	—
	Split view	操作画面を 4 アングルモード（4 Angles）または 6 アングルモード（6 Angles）に設定する。	4 Angles
	Character super	PWA-PRC1 の操作画面上に表示される各種文字情報をサーバーの Monitor Out にも出力するかどうかを指定する。PWA-PRC1 の操作画面用のディスプレイを設置できない状況でも、外部モニターを見ながら操作が可能。 PRC: PWA-PRC1 の操作画面上にのみ情報表示 PWS: サーバーの Monitor Out と PWA-PRC1 の操作画面上に情報表示	PRC
	Metadata on OSD	クリップにメタデータ（レイティング、キーワード）が登録されている場合に、ビューアーに内容を表示するかどうかを指定する。	No
	In/Out/Dur on OSD	IN 点、OUT 点、デュレーションのビューアーおよびサブモニターへの表示（Yes）／非表示（No）を指定する。 **ご注意** [Character super]が[PWS]の場合は、表示できません。	No
	Default screen	起動時、およびプレイリストモードで[RECORD]または[TAKE]ボタン（[Multi playlist]が[Enable]時）を押した際に表示される画面を指定する。	1-Device
	Preview control mode	Preview Control モードの有効（Enable）／無効（Disable）を設定する。	Disable

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
	Effect duration for TAKE	Preview Control モード時に[TAKE]ボタンを押したときに Effect が設定されている場合の Transition Time を設定(0:00～3:00)。	0:05
	Audio slow motion	スロー再生時にオーディオを出力するかどうかを指定する。 Yes: スロー再生時もオーディオを出力する No: スロー再生時に消音する	No
	Name field	メタデータ設定モード画面でクリップを選択したときの Name 欄の表示形式を指定する。 Clear: 別のクリップを選択すると、Name 欄がクリアされる Remain: 別のクリップを選択しても、Name 欄の内容を維持する Recall: 別のクリップを選択すると、そのクリップのクリップ名を Name 欄に表示する	Recall
	Mark for each angle	カメラアングルごとに異なる IN 点/OUT 点を設定するかを指定する。 Yes: アングルごとに個別の IN 点/OUT 点を設定する No: 1 つのアングルで IN 点/OUT 点を設定すると、すべてのアングルに同じ IN 点/OUT 点が設定される	No
	Out point display mode	[In/Out/Dur on OSD]が[Yes]に設定されている場合にビューアーおよびサブモニターに表示される OUT 点の表示モードを指定する。 Include: OUT 点のフレームの値をそのまま OUT 点として表示する Exclude: OUT 点の次のフレームの値を OUT 点として表示する	Include
	Confirm dialog for [Delete All]	プレイリストモードおよびカットアウトモードの操作画面で[Delete All]をクリック／タップしたときに、削除の確認ダイアログを表示するかどうかを設定する。 Playlist: プレイリストモードの操作画面で[Delete All]を実行したときに確認ダイアログを表示する／しない Cutout: カットアウトモードの操作画面で[Delete All]を実行したときに確認ダイアログを表示する／しない	すべてオフ
GUI and Panel links	Panel1/2	該当する操作パネルが接続されている場合に、その行が有効になる	—

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
	Main	操作パネルとメインディスプレイの連携を設定する。 連携オン（チェックマーク）：次の操作が連携して動作する。 ・ページ／バンク指定、PGM へのクリップ／プレイリストのロード、プレイリストモードへの切り換え、プレイリストモードからのモード切り換え、セッティング画面への切り換え ・操作パネルでのネットワークコピーモードへの切り換え 連携オフ：ページ／バンク指定、モード切り換え操作が連携せずに独立して動作する ・メインディスプレイの操作画面からのクリップ／プレイリストのロードは無効となる ・セッティング画面への切り換えはメインディスプレイの操作画面からのみ可能となる	—
	Sub 1/2	操作パネルに割り当てるサブモニターを設定する。 接続あり（チェックマーク）、接続なし	—
	Update	操作パネルとサブモニターの接続状況の確認および識別表示を行う。 ・Panel1 として識別された操作パネルの[F1]が 3 秒間緑点灯 ・Panel2 として識別された操作パネルの[F2]が 3 秒間緑点灯 ・Sub1 として識別されたサブモニターに"Submonitor 1"を 3 秒間表示 ・Sub2 として識別されたサブモニターに"Submonitor 2"を 3 秒間表示	—
Controller	HFR jog mode	HFR のクリップに対するジョグ操作時の速度特性。 Frame base：フレームを基準にコマ送りする Real time base：実時間を基準にコマ送りする	Frame base
	Fast jog	ジョグダイヤルの高速モードの速度増加量。 1～50 倍	20
	PGM speed/var Max	[PgmSpd]有効時の固定速度、または[VarMax]有効時の最大速度。 1～100%	50
	Lever engage mode	フェーダーレバーの動作モード。 Direct：レバーの位置に対応した再生速度（1～100%）で動作する Current speed：現在の再生速度に対応するレバーの位置に移動した時点から、レバーが有効になる	Direct
	Second lever range	フェーダーレバーのセカンドモードの速度範囲。 －100%～＋100%、0%～＋200%、 －200%～＋200%、0%～＋400%、 －400%～＋400%	－100%～ ＋100%
	Recall clip toggle	ファンクションボタン数回押しによるカメラアングルの切り換えの有効（チェックマーク）／無効を設定する。	有効

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
	Record key	[RECORD]ボタンの動作。 Live：記録が停止されている場合は、開始せずに最後の記録画像に切り換わる Start REC+Live：記録を開始して、ライブモードに切り換わる	Start REC+Live
	Play key	HFR のクリップに対する[PLAY]ボタンの動作。 Play：通常の[PLAY]ボタンの速度で再生を開始する Feed Play：クリップ記録時のフレームレートに従った速度で再生を開始する	Play
	Browse key	クリップまたはレコードトレインの操作中に[BROWSE]ボタンを押したときの動作の指定。 Search TC：コントロール対象となっている PGM の現在のタイムコードで検索を実行し、結果を表示する Search result：最後に行った検索条件で検索を実行し、結果を表示する	Search result
	First lever mode for HFR	HFR のクリップに対するフェーダーレバーのファーストモードの動作モード。 Type-A：スローランプ位置固定 Type-B：スロー速度位置固定	Type-A
	Multi playlist	2PGM モード時、Multi playlist の有効（Enable）／無効（Disable）を設定する。	Disable

[Local 2]

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
Record trains	Loop REC	ループ記録モードの有効（チェックマーク）／無効を設定する。	無効
	Recording port	サーバーの入力ポートで記録を行うかどうかを設定する。 記録する（チェックマーク）、記録しない CAM A は記録する（チェックマーク）固定 [Apply]ボタン：Recording port の設定変更を有効にする。 [Apply]ボタンをクリック／タップ後、サーバーはいったん全記録を停止し、記録設定の CAM のみ記録を開始する。起動時は記録設定の CAM のみ記録を開始する。	すべてオン
	Default clip duration	IN 点、OUT 点の一方だけを指定した場合のクリップ自動作成のデュレーション。 有効（チェックマーク、1～60 秒に設定可能）、無効（自動作成しない）	無効
	Guardbands	クリップ保存時に IN 点前と OUT 点後に付加するガードバンドの長さの設定（0～60 秒）。	5
	Record train OUTs	レコードトレインの OUT 点に達したときの動作。 Play through：再生を続ける Freeze：再生を停止する	Play through

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
	Mark cue points	キューアップポイント設定時に使用されるタイムコード。 Live：記録中のレコードトレインのタイムコードを使用する Playback：クリップ再生中のチャンネルのタイムコードを使用する	Playback
	Preroll for cue point	LAST CUE によってキューアップさせるポイントを、実際のマーク位置より前にシフトさせる設定（0:00～60:00）。	0:05
	Freeze on cue points	再生時に Cue ポイントに達した時の動作。 Yes：再生を停止する No：再生を続ける	No
	HFR TC mode	HFR 素材時の TC 表示を設定。 HFR：スロー再生の TC 表示をする Real time：リアルタイムの TC 表示をする	Real time
	Default cue up	記録済みレコードトレインをロードしたときのキューアップ位置を指定。 Start：先頭にキューアップ End：最後にキューアップ	End
	Chase delay	ライブモードの画像を遅延再生させる場合、遅らせる秒数を出力ごとに指定する（0～120 秒）。	0
Clips	Clip post-roll	［PostRoll］有効時の OUT 点に達したあとの再生時間（0～30 秒）。	2
	Auto make clip for CAM	クリップに登録するアングルとして、コントロール対象となっていないアングルについてアングルを保存するかどうかを指定する。カメラアングルごとにチェックボックスで設定する。 オン：クリップ保存時にこのアングルを保存する オフ：クリップ保存時にこのアングルを保存しない	すべてオン

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
	Auto name clips	クリップ作成時に自動的に設定されるクリップ名の命名規則を設定。 設定する規則をリストボックスで選択し、テキストボックスに文字列を入力すると、入力した文字列が作成時にクリップ名として付けられる。テキストボックスを空欄にすると、クリップ名は設定されない。 予約語を使用する場合は、テキストボックス下の予約語をダブルクリックすると、テキストボックスに追加される。 %CAMLBL%：クリップ登録時の入力名（CAM A～F）、別名が設定されている場合は別名を使用する。 %PORTLBL%：クリップ登録時のポート名 %CDATE%：クリップの作成年月日 %TCIN1%：IN 点のタイムコード（「HH:MM:SS:FF」の形式で表示） %TCIN2%：IN 点のタイムコード（「HHMMSSFF」の形式で表示） **ご注意** 入力可能文字数は、予約語を含め最大 32 文字です。予約語がクリップ名に変換されたときに 33 文字以上になった場合、クリップ名の 33 文字以降は削除されます。	Rule1 空欄
Playlists	Default effect	プレイリストへのクリップ登録時のエフェクト切り換えのデフォルト値（Cut、Mix または White Flash のいずれか）を指定する。	Cut
	Video effect duration	プレイリストへのクリップ登録時に映像にエフェクトを適用する場合に、デフォルトの適用時間を指定する（0～3:00）。	0:05
	Audio effect duration	プレイリストへのクリップ登録時にオーディオにエフェクトを適用する場合に、デフォルトの適用時間を指定する（0～3:00）。[Lock to video]をオンにすることで映像へのエフェクトと同じ時間にすることも可能。	有効 0:05
	Max speed	プレイリスト編集モードでの Speed 値の上限を設定する。 100%：Speed 0%～100% 400%：Speed 0%～400% **ご注意** ローカルサーバーが BPU4800 の場合、400%に設定しても、Speed の設定範囲は 0%～100%となります。	100%
	Default speed for HFR clip	プレイリストに HFR クリップを登録した際の HFR クリップの再生速度を設定する。 Real time：100%の速度で再生する Slow：HFR 倍率に合わせてスロー再生する	Real time

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
	Insert in playlist	プレイリスト編集において、クリップ挿入時に挿入先クリップの前後どちらに挿入するかを指定する。 Before: クリップの前に挿入 After: クリップの後に挿入	Before
	Advanced audio editing	スプリット編集およびスワップ編集を行うかどうかを指定する。	No
	Swap audio track	オーディオチャンネルの入れ換えの設定を行うときのモードを指定する。入れ換えるチャンネルを手動で指定するときは[Manual]を指定。	Auto
	Playback with dummy clip	Dummy clip が存在する場合に、Internal signal (RAMP)に置き換えて再生できるようにするかを設定する。 Enable: 再生可 Disable: 再生不可	Disable
	Playlist pre-roll / post-roll	プレイリストの最初、または最後にのりしろを付ける(0～30 秒)。	0
	Melt default In TC	[Melt]ダイアログに表示する IN 点のタイムコードを設定。	01:00:00:00
	Effect by two ports	XAVC 4K/QFHD、Avid DNxHD および Apple ProRes 422 フォーマットで 1 ボード 2 Out(Multi)構成時、プレイリスト編集モードでエフェクトの設定を可能にするかを設定する。 Enable: エフェクト設定可能、[PRV CTL]ボタン無効 Disable: エフェクト設定不可、[PRV CTL]ボタン有効	Disable
	100% speed by first lever	フェーダーレバーの操作でプレイリストを 100%の速度で再生したときに行われる動作を指定する。 Var: 100%未満の再生速度と同じ動作(オーディオのクロスフェードは無効) Play: Play ボタンを押して再生したのと同じ動作(オーディオのクロスフェードは有効)	Var

[System 1]

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
PRC manager	Primary PRC manager IP/Port	PRC Manager の IP アドレスと、通信に使用するポート番号を指定する。 **ご注意** この設定を変更した場合は PWA-PRC1 を再起動してください。	IP アドレスは未設定 ポート番号は 51000

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
	PTP Domain	Share Play 用 PTP ドメイン値（Primary、Secondary）を 0～127 の範囲で設定。 ［Set］ボタン： 設定変更による Share Play 関係の接続リセットを行う	Primary：100 Secondary：101
	ISC Auto maintenance	PWA-ISC1 の自動メンテナンスの有効（On）/無効（Off）を指定する。 PWA-ISC1 が接続されていないときのみ設定可能。	Off
4K server (s)	—	ネットワーク上のサーバー情報を登録する（最大 10 サーバー）。	—
	ID	接続されたサーバーID を表示。	—
	Model Name	機種名を表示。	—
	Name	サーバー名を指定する。	サーバーID
	Local	ローカルサーバーを指定する。	（未設定）
	Push	プッシュ機能利用時の転送先サーバーを指定する。	（未設定）
	Control IP	サーバーの Network 1 に設定されている IP アドレスを表示。	—
	Transfer IP	転送用の IP アドレスを設定。	Control IP と同じ値
	Ready Status	サーバーの Share Play の状態を表示。	ー
	Genlock Status	サーバーの 4 つの Share Play ポートの状態を表示（転送側の場合は「T」、受信側の場合は「R」）し、使用中かどうかを下記のように示す。 ・リンクオフ時は何も表示しない ・リンクオンから Gen Lock するまでは、状態ごとに「Stopped」「Free Running」「Locking」「Locked」と表示 ・Share Play 可能時はポートごとに緑で表示 ・Share Play 使用中はポートごとに黄で表示 ・「*」が表示されているサーバーは Gen Lock Master となっていることを示す。	ー
	Rec control	ネットワークサーバーに対して記録開始または停止を実行する。 ［Start］ボタン： 記録開始 ［Stop］ボタン： 記録停止	ー
	Edit by network	該当サーバーがネットワークサーバーとなる PRC1 からのクリップに対する編集・削除を有効または無効にする。	Yes
	Push receive page	プッシュ機能で転送されたクリップの受信ページを選択（0～9、複数選択可）。	（未設定）
	Network/PL clip save page	ネットワークサーバーに接続中の PRC1 において、該当サーバー上の素材からその PRC1 が管理するクリップリ	（未設定）

カテゴリー	項目	内容と設定値	初期設定
		ストにクリップを作成する場合に、登録するページを選択する（0～9、複数選択可）。 **ご注意** 指定するページのあるサーバーがローカルに指定されている場合は、ローカルに指定している PWA-PRC1 からのみ設定できます。ローカルに指定されていないサーバーの場合は、どの PWA-PRC1 からでも設定できます。	
	Protect pages	クリップをプロテクトするページを指定する（0～9、複数選択可）。 **ご注意** 指定するページのあるサーバーがローカルに指定されている場合は、ローカルに指定している PWA-PRC1 からのみ設定できます。ローカルに指定されていないサーバーの場合は、どの PWA-PRC1 からでも設定できます。	（未設定）
Media Gateway	IP address	使用する Media Gateway の IP アドレスを選択する。 [Refresh]ボタン：Media Gateway に接続されているドライブ情報を取得する **ご注意** 次の場合、[Refresh]ボタンをクリック／タップしてドライブ情報を再取得してください。 ・アーカイブ先のドライブの接続に変更があった。 ・メディアを入れ換えた ・Server transfer IP の変更および削除を行った	（未設定）
	Drive	アーカイブ先のドライブを一覧から選択する。	（未設定）
	Push machine	Media Gateway に接続されているサーバーからプッシュ機能の転送先を選択する。	（未設定）
	Folder	アーカイブ先のフォルダーを一覧から選択する。 [Folder]ボタン：フォルダーの一覧が表示される	ルートフォルダー
Push target	—	プッシュ機能の転送先サーバーを選択する。 4K server：[Push]で選択された 4K サーバーを選択 Other server：Media Gateway に接続されているサーバーを選択	4K server
	Push page/bank dialog	プッシュ機能の実行時に、ページ／バンクを指定するダイアログを表示するかを設定する。 Yes：ダイアログを表示する No：ダイアログを表示しない	No

[System 2]

カテゴリー	項目	内容	初期設定
Port name	—	各ポートに割り当てられている入力名（CAM A～F）および PGM 名（PGM1、PGM2）に任意の名称を付ける。 入力名、PGM 名を設定したいサーバーをリストボックスで選択し、テキストボックスに名前を入力する（最大 8 文字）。	—

カテゴリー	項目	内容	初期設定
Mapping network cam	—	任意のカメラアングル（A～F）にネットワークカメラを割り当てる。 **ご注意** ［Recording port］で記録を行わない設定になっているポートにのみ割り当てることができます。 割り当てたネットワークカメラからの画像をビューアーに表示する場合、右側に表示されるリストボックスで、表示させるビューアーの入力名（CAM A～F）と、入力している MSQ-S321 のポートを指定する。	Local

［BPU4800］

カテゴリー	項目	内容	初期設定
Transcode	ー	BPU4800 でのトランスコート処理を行うクリップについて、処理状況を一覧で表示する。	ー
	ClipID	トランスコードするクリップ ID を表示。	ー
	Duration	クリップ全体の長さを表示。	ー
	Server Name	処理を実行する BPU4800 のサーバー名を表示。	ー
	Trigger	実行依頼を行ったアプリケーション名と、そのアプリケーションが動作している PC の IP アドレスを表示。	ー
	State	処理状況を表示。	ー
	Progress	処理の進行状況を表示。	ー
	Cancel	［Cancel］ボタン： 処理の中止を実行する。	ー
Controller	SharePlay from BPU4800	BPU4800 上の素材で Share Play を行うかどうかを指定する。 Yes: Share Play を行う No: Share Play を行わない	No

［About］

項目	内容
About	PWA-PRC1 のバージョンを表示する。

ご注意

無効な設定値を入力した場合の動作は保証できません。有効な値を設定してください。

付録

商標について

Avid および Avid DNxHD は、米国あるいはその他の国における Avid Technology Inc.やその子会社の登録商標または商標です。
Apple は Apple, Inc.の商標です。

本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標または商標です。なお、本文中では、®、TM マークは明記していません。

LGPL 適用ソフトウェアの入手について

本製品は、LGPL 適用ソフトウェアとして Qt を使用しており、お客様には、ソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせします。ソースコードの入手方法については、ソニーの営業担当者またはサービス担当者にお問い合わせください。なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

このマニュアルに記載されている事柄の著作権は当社にあり、説明内容は機器購入者の使用を目的としています。
従って、当社の許可なしに無断で複写したり、説明内容（操作、保守等）と異なる目的で本マニュアルを使用することを禁止します。